



# Sitecore CMS 6.4

# インストール ガイド

管理者および開発者向けのインストール ガイド

## 目次

Chapter 1	イントロダクション .....	5
1.1	Sitecore CMS 6 をインストールするための準備 .....	7
Chapter 2	Sitecore CMS 6 の要件 .....	8
2.1	Sitecore ホスティング環境の要件 .....	9
2.1.1	オペレーティング システムの要件 .....	9
2.1.2	.NET Framework の要件 .....	10
2.1.3	データベースの要件 .....	10
2.1.4	ハードウェアの要件 .....	11
	Sitecore 開発ホストの最小要件 .....	11
	Sitecore サーバー ホストの最小要件 .....	11
2.2	Sitecore クライアント環境の要件 .....	12
2.2.1	ブラウザの要件 .....	12
2.2.2	ハードウェアの要件 .....	12
Chapter 3	Sitecore インストール プログラムの使用 .....	13
3.1	インストール前の手順 (Windows Vista、Windows 7、Windows 2008 の場合) .....	14
3.1.1	IIS 6 構成との互換性機能 .....	14
3.1.2	UAC (ユーザー アカウント制御) の設定 (Windows Vista のみ) .....	16
3.2	インストール プロセス .....	18
3.2.1	SQL Server .....	21
	クライアントのみをインストールする場合 .....	26
	データベースのみをインストールする場合 .....	30
3.2.2	Oracle 表領域 .....	33
3.2.3	Oracle .....	34
	クライアントのみをインストールする場合 .....	37
	データベースのみをインストールする場合 .....	41
3.3	重要事項 .....	44
3.4	Sitecore のアンインストール .....	45
3.5	トラブルシューティング .....	46
Chapter 4	.ZIP ファイルからインストールする .....	47
4.1	SQL Server のインストール .....	48
4.2	IIS の設定 .....	50
4.2.1	IIS 7 .....	50
	アプリケーション プールの設定 .....	50
	Web サイトの設定 .....	51
	匿名ユーザーへのアクセスを制限する .....	53
4.2.2	IIS 6 .....	54
	アプリケーション プールの設定 .....	54
	Web サイトの設定 .....	54
	匿名ユーザーへのアクセスを制限する .....	55

4.2.3	IIS 5 .....	57
	ホーム ディレクトリ の設定 .....	57
	匿名ユーザーへのアクセスを制限する .....	58
4.3	フォルダー アクセス許可の設定 .....	61
4.3.1	IIS 7 および 7.5 .....	61
	ASP.NET アカウント .....	61
	匿名インターネット ユーザー アカウント .....	64
4.3.2	IIS 5 および 6 .....	65
	ASP.NET アカウント .....	65
	匿名インターネット ユーザー アカウント .....	69
4.4	Microsoft SQL Server の設定 .....	70
4.4.1	SQL Server 2008 に Sitecore CMS データベース用のデータベース アカウントを作成する.....	70
	ストアド プロシージャの実行権限を付与する.....	73
4.5	Oracle データベース ストレージのセットアップ .....	75
4.5.1	Oracle ストレージのセットアップ .....	75
	データベース サーバーの準備.....	75
	Website サーバーのセットアップ手順.....	76
4.6	インストール後の手順 .....	78
4.6.1	検索インデックスとリンク データベースを構築し直す .....	78
4.7	Sitecore (ZIP インストール) のアンインストール.....	79
Chapter 5	制約事項と個別の要件.....	80
5.1	OS ごとの要件 .....	81
5.1.1	Windows XP .....	81
5.2	フォルダー セキュリティの設定 .....	82
5.2.1	IIS 5、IIS 6、identity impersonate の設定 .....	82
5.3	最大ワーカー プロセス数.....	83
5.4	ブラウザごとの要件 .....	84
5.5	その他 .....	85
5.5.1	最新の更新プログラムをインストールする.....	85
5.5.2	UNC 共有には対応していない.....	85
5.5.3	Sitecore は仮想ディレクトリからは稼働できない .....	85
5.5.4	.NET Framework を更新する前に IIS をインストールする .....	85
Chapter 6	付録.....	86
6.1	サーバーの設定 .....	87
6.1.1	フォルダーのセキュリティ設定を更新する.....	87
6.1.2	アクセス許可が継承されるように設定する .....	87
	[セキュリティ] タブを見えるようにする .....	87
	アカウントを表示させる.....	88
6.1.3	Oracle インスタンスへの接続を追加する .....	89
6.2	IIS .....	95
6.2.1	IIS にアクセスする .....	95
6.2.2	IIS 5 または IIS 6 で新規 Web サイトを作成する.....	95
6.2.3	IIS 7 で新規 Web サイトとアプリケーション プールを作成する .....	95

6.3 Visual Studio で Web プロジェクトを作成する.....97

# Chapter 1

## イントロダクション

このマニュアルでは、Sitecore CMS のインストールについて説明します。

開発用ワークステーションやテスト環境のような小規模実装の場合は、Sitecore CMS とデータベース サーバーを同じ 1 台のコンピューターにインストールすることができます。比較的大規模な実装の場合は、データベース サーバーとアプリケーション サーバーを分けるのが普通です。ビジネス ユーザー用のコンテンツ制作環境も、多くの場合、インターネット ユーザーのアクセスするコンテンツ配信環境と別にします。

Sitecore は、3 つの論理コンポーネントに分けることができます。これは、セットアップ用の .exe ファイルまたは .zip ファイルのどちらかを使用して Sitecore の新規インスタンスをインストールする場合も、どのデータベース製品を使用する場合も関係がありません。

3 つの論理コンポーネントは以下のとおりです。

- IIS ドキュメント ルート (Web サイト)。
- ログ用およびデータ用のサポーターティング ファイル システム (/Data フォルダー)。データは、ドキュメント ルートの下に格納できます。
- サポーターティング リレーショナル データベース。データベースは、多くの場合、サポーターティング ファイル システムに格納されます。

設定については、web.config のようなファイルと、/App\_Config フォルダーの下にあるファイルとで管理されます。

Sitecore CMS は、以下の 2 つの方法で配布できます。

- 実行可能インストール プログラム (.exe ファイル)

- Sitecore CMS ソリューションを 1 個のファイル システムに圧縮したアーカイブ コピー (zip ファイル)

可能な限りインストール プログラムを使用してください。インストール プログラムには、インストール プロセスの手順を示すウィザードが含まれています。

インストール プログラムを使用した方が、zip ファイルを設定するよりも相当手間が省けます。

Sitecore CMS ソリューションのアーカイブを作成すると、Sitecore CMS ソリューションをコンピューター同士の間で移動できます。

このマニュアルには次の章があります。

- Chapter 1: イントロダクション
- Chapter 2: Sitecore CMS 6 の要件
- Chapter 3: Sitecore インストール プログラムの使用
- Chapter 4: .ZIP ファイルからインストールする
- Chapter 5: 制約事項と個別の要件
- Chapter 6: 付録

ご不明な点がある場合、またはこのマニュアルと製品との矛盾についてご報告いただく場合は、<http://support.sitecore.net/helpdesk/> にアクセスしてください。

## 1.1 Sitecore CMS 6 をインストールするための準備

Sitecore のインストール方法はさまざまです。どのデータベース製品を選択するかによっても異なりますし、サーバー管理者の方針や、実行する環境 (開発、テスト、コンテンツ制作、コンテンツ配信など) によっても異なってきます。

Sitecore CMS のアーキテクチャを完全に理解し、このインストール マニュアルを読み終えてから、基本となるインストール プランを策定してください。

Sitecore CMS をインストールしようとする前に、以下の項目を決定しておく必要があります。

- プロジェクト名と頭字語 (たとえば ProjectName)
- 頭字語/接頭辞 (たとえば PN)
- インストール先のファイル システム ルート (たとえば C:\inetpub\wwwroot\ProjectName)
- データベース製品 (SQL Server 2005、SQL Server 2008、SQL Express のいずれかの SQL データベース、または Oracle データベース)
- データベース ロケーション (ローカルに配置するのか、リモート サーバー上に配置するのか)
- Sitecore CMS の適切なライセンス
- ハードウェア
- コンピューターとデータベースにアクセスするための管理用アクセス手段
- Sitecore Developer Network (<http://sdn.sitecore.net>) へのアクセス許可 (お近くの営業所またはパートナー マネージャーにお問い合わせください)
- IIS 構成 (ホスト ヘッダーなど)

## Chapter 2

### Sitecore CMS 6 の要件

この章では、Sitecore CMS 6 のホスト コンピューターとクライアント コンピューターに関する前提条件、ハードウェア要件、ソフトウェア要件について説明します。このマニュアルに出てくる "サーバー" という用語は、Windows OS 上の Web サーバーのことを指します。また "ホスト" という用語は、サーバーまたはワークステーションにインストールされた Sitecore CMS 環境のことを指します。

この章には次のセクションがあります。

- Sitecore ホスティング環境の要件
- Sitecore クライアント環境の要件

## 2.1 Sitecore ホスティング環境の要件

### 2.1.1 オペレーティング システムの要件

Sitecore CMS は、以下の Microsoft オペレーティング システムでホストできます。

- Windows XP (32 ビット)
- Windows Server 2003 (32/64 ビット)
- Windows Server 2008 (32/64 ビット)
- Windows Vista (32/64 ビット)
- Windows 7 (32/64 ビット)

#### 重要

Windows Update (<http://windowsupdate.microsoft.com>) にアクセスし、該当するすべてのサービス パックとセキュリティ更新プログラムを、Sitecore CMS のすべてのホスト コンピューターとクライアント コンピューターにインストールしてください。

Sitecore をホストする Microsoft Windows XP コンピューター、または Internet Explorer で Sitecore にアクセスする Microsoft Windows XP コンピューターには、すべて Windows XP サービス パック 2 (またはそれ以降の更新プログラム) をインストールする必要があります。Microsoft Windows 2003 の場合は、サービス パック 2 (またはそれ以降の更新プログラム) を強くお勧めします。最低でもサービス パック 1 が必要です。

Sitecore CMS は、**Windows Vista** オペレーティング システムの以下のエディションに対応しています。

- Business
- Ultimate
- Enterprise

上記以外のエディションの Vista (Home Basic など) は、IIS サーバーに制限事項があります。Windows Vista の各エディションでの IIS 構成について詳しくは、以下のリンクにある解説を参照してください。

- [Why you need Vista Business / Ultimate for IIS 7? \(英語\)](#)
- [IIS 7.0 Features and Vista Editions \(英語\)](#)

Sitecore CMS は、**Windows 7** オペレーティング システムの以下のエディションに対応しています。

- Ultimate
- Professional
- Enterprise

IIS 7.5 がインストールされていれば、**Windows 7 Home Premium** で Sitecore が実行できます。Windows 7 Home Premium に IIS 7.5 をインストールする場合の詳細な情報については、以下のリンクにある解説をお読みください。

- [Windows 7 Home Premium、Home Basic、または Home Starter への IIS 7.5 のインストール](#)

**Windows 7** の各エディションにおける機能の制限については、以下のリンクにある解説をお読みください。

- [IIS 7.5 で使用できる Web サーバー \(IIS\) の役割サービス](#)

#### メモ

Sitecore CMS は、ネットワーク共有 (UNC) 上ではなく、ローカル ドライブ上にインストールする必要があります。

### 2.1.2 .NET Framework の要件

Sitecore CMS 6 には .NET Framework 3.5 が必要です。

.NET Framework に適用できるすべての更新プログラムを、すべての Sitecore ホストに適用してください。

IIS 6 を実行している Sitecore ホスト上で発生する、ASP.NET の設定上の問題を減らすため、先に IIS をインストールして有効にしてから .NET Framework を更新してください。

IIS 6 を実行しているが、IIS をインストールする前に .NET Framework をインストールした場合は、トラブルシューティングの指示に関する解説が以下のリンクにありますので参照してください。

- [ASP.NET インストールでのトラブルシューティング \(IIS 6.0\)](#)

### 2.1.3 データベースの要件

Sitecore CMS は、以下のデータベース サーバーに対応しています。

- MS SQL Server 2005 (Express エディションにも対応)
- MS SQL Server 2008 (推奨)
- Oracle 10g、11g

Microsoft SQL Server 2008 については、別のデータベース サーバーで実行することをお勧めします。

## 2.1.4 ハードウェアの要件

### Sitecore 開発ホストの最小要件

- プロセッサ: Intel Core Duo、またはそれより高速のプロセッサ
- RAM: 最低 1 GB (2 GB を推奨)
- ソフトウェア: Microsoft Visual Studio 2008 を強く推奨

### Sitecore サーバー ホストの最小要件

- プロセッサ: Intel Core Duo、またはそれより高速のプロセッサ (デュアル CPU を推奨)
- RAM: 最低 2 GB (4 GB を推奨)

## 2.2 Sitecore クライアント環境の要件

### 2.2.1 ブラウザーの要件

Sitecore CMS クライアントは、ブラウザーをベースとしたユーザー インターフェースです。Sitecore クライアントは、以下のブラウザーで実行できます。

- Firefox 3
- Google Chrome
- Microsoft Internet Explorer 6
- Microsoft Internet Explorer 7
- Microsoft Internet Explorer 8

### 2.2.2 ハードウェアの要件

- プロセッサ: Intel Pentium 4 2 GHz、またはそれより高速のプロセッサ
- RAM: 最低 512 MB (1 GB を推奨)
- 512 Kbps 以上の速度で Sitecore CMS ホストに TCP/IP 接続できること
- 高度な操作および特定のモジュールには、1024x768 以上の画面解像度が必要

Sitecore CMS ホストへのアクセスに使用する Sitecore CMS クライアントには、他に別途ソフトウェアをインストールする必要はありません。

## Chapter 3

### Sitecore インストール プログラムの使用

この章では、実行可能インストール プログラムを使用して Sitecore CMS をインストールするプロセスについて説明します。

Sitecore インストール プログラムは、[Sitecore CMS ダウンロード ページ](#)からダウンロードできます。

この章には次のセクションがあります。

- インストール前の手順
- インストール プロセス
- 重要事項
- トラブルシューティング

## 3.1 インストール前の手順 (Windows Vista、Windows 7、Windows 2008 の場合)

Windows Vista、Windows 7、Windows 2008 のいずれかに Sitecore をインストールする前に、IIS 6 構成との互換性機能が有効になっていることを確認する必要があります。

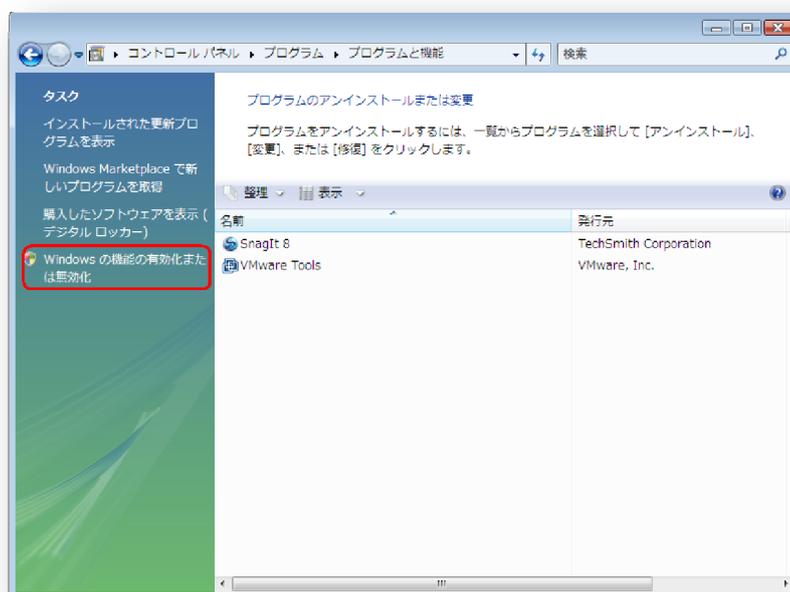
Windows Vista の場合は、UAC (ユーザー アカウント制御) の設定セキュリティ ポリシーである [アプリケーションのインストールを検出し、昇格をプロンプトする] が有効になっていることを確認する必要があります。

### 3.1.1 IIS 6 構成との互換性機能

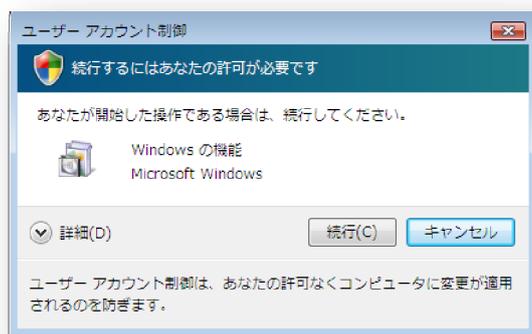
Sitecore インストール プログラムには、IIS 6 構成との互換性が必要です。

該当する機能が有効になっていることを確認する方法:

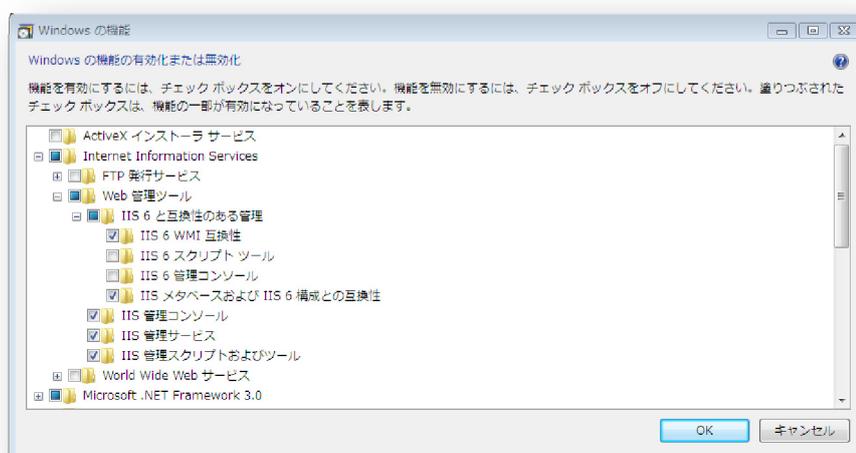
1. 管理者として Vista にログインします。
2. [スタート]、[コントロール パネル] の順にクリックします。
3. [プログラムと機能] アイコンをダブルクリックします。
4. [タスク] ペインで、[Windows の機能の有効化または無効化] タスクをクリックします。



続行するかどうかの許可を求めるダイアログ ボックスが表示されます。



5. [続行] をクリックすると、[Windows の機能] ダイアログ ボックスが開きます。



6. [インターネット インフォメーション サービス] グループを見つけて展開します。
7. [Web 管理ツール] グループを見つけて展開します。
8. [IIS 6 と互換性のある管理] グループを見つけて展開します。
9. [IIS 6 WMI 互換性] 機能が有効になっていることを確認します。
10. [IIS メタベースおよび IIS 6 構成との互換性] 機能が有効になっていることを確認します。

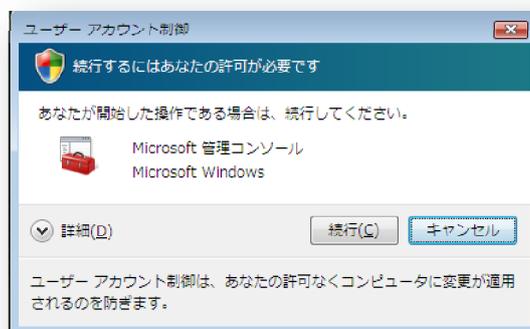
### 3.1.2 UAC (ユーザー アカウント制御) の設定 (Windows Vista のみ)

Vista でインストール プログラムを実行するには、UAC (ユーザー アカウント制御) の設定セキュリティ ポリシーである [アプリケーションのインストールを検出し、昇格をプロンプトする] を有効にする必要があります (特に指定しない限り、この設定が有効になっています)。

この設定が変更されていないかどうかを確認する方法:

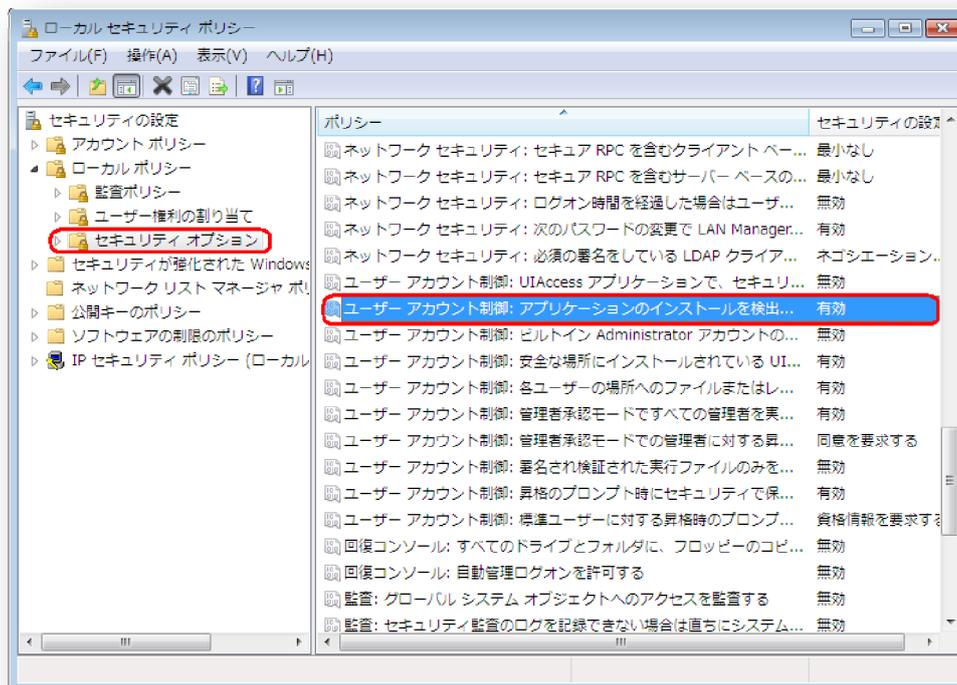
1. 管理者として Vista にログインします。
2. Windows キーを押しながら R キーを押して、[ファイル名を指定して実行] ウィンドウを開きます。
3. [ファイル名を指定して実行] ウィンドウに「secpol.msc」と入力し、Enter キーを押します。

続行するかどうかの許可を求めるダイアログ ボックスが表示されます。



4. [続行] をクリックすると、[ローカル セキュリティ ポリシー] ウィンドウが開きます。
5. 左のペインで、[ローカル ポリシー] ノードを展開し、[セキュリティ オプション] をクリックします。
6. 右のペインのポリシー リストの一番下までスクロールします。

7. [ユーザー アカウント制御: アプリケーションのインストールを検出し、昇格をプロンプトする] ポリシーが [有効] に設定されていることを確認します。



## 3.2 インストール プロセス

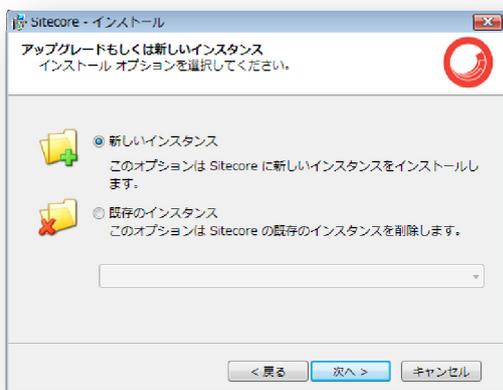
インストール プロセスを開始するには、**Sitecore 6.X.X rev.XXXXXX.exe** アプリケーションを起動する必要があります。このアプリケーションを起動すると、インストール ウィザードが開始されます。このセクションでは、インストール ウィザードの各手順について説明します。

### [Welcome] 画面



[welcome] 画面を確認してから [次へ] をクリックします。

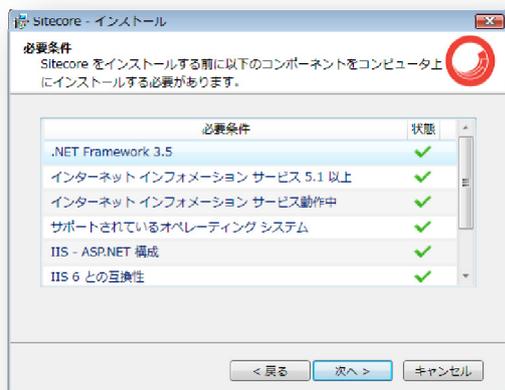
### [アップグレードもしくは新しいインスタンス]



新規インスタンスをインストールする場合は、[新しいインスタンス] をクリックします。

Sitecore CMS の既存のインスタンスを削除する場合は、[既存のインスタンス] をクリックします。このオプションは、Sitecore のインスタンスが既にコンピューター上にある場合のみ有効です。

## [必要条件]

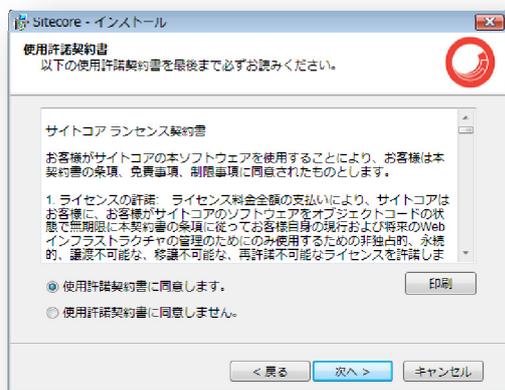


Sitecore CMS をインストールするのに必要なコンポーネントがインストール ウィザードによって調べられ、要件を満たしているコンポーネントには緑色のマークが表示され、それ以外のコンポーネントには、赤いバツ印が表示されます。赤いバツ印が表示された場合は、続行する前に要件を適宜解決する必要があります。終了したら [次へ] をクリックします。

## メモ

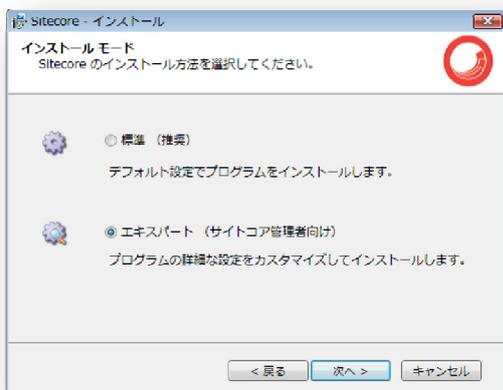
アプリケーション インストーラーによって特に WebClient サービスの有無が確認されます。このサービスは、Windows ベースのプログラムでインターネット ベースのファイルの作成、アクセス、変更をできるようにするものです。WebDAV 機能には、このサービスが必要です。

## [使用許諾契約書]



[使用許諾契約書] を読み、該当するオプション ボタンをクリックします。終了したら [次へ] をクリックします。

## [インストール モード]



インストール モードを選択します。**[標準]** をクリックした場合は、デフォルト設定のまま短時間で Sitecore がインストールできます。インストールをカスタマイズする場合は、**[エキスパート]** をクリックしてください。

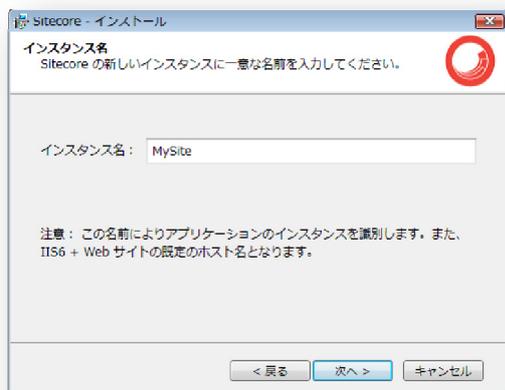
終了したら **[次へ]** をクリックします。

## [ライセンス ファイル]



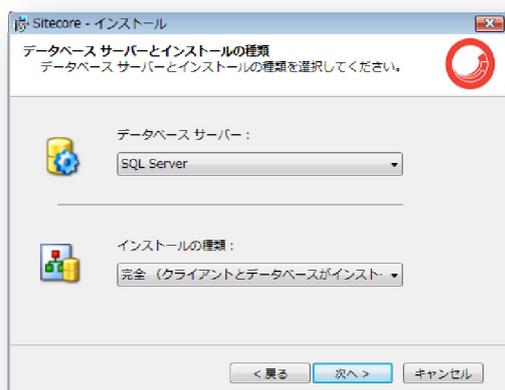
ライセンス ファイルを選択します。終了したら **[次へ]** をクリックします。

## [インスタンス名]



Sitecore CMS の新規インスタンスに、他と重複しない名前を付けます。後の手順で新規サイトを作成することにした場合は、この名前が IIS Web サイトのホスト名としても使用されます。

## [データベース サーバーとインストールの種類]



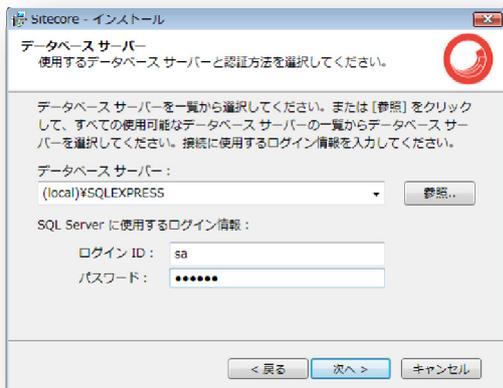
データベース サーバーとインストールの種類を選択します。SQL Server のデータベース オプションについては、次のセクションで説明します。Oracle ストレージを使用する場合は、「Oracle」セクションに進んでください。

インストールの種類 (クライアントのみ、およびデータベースのみ) については、後のセクションで説明します。

### 3.2.1 SQL Server

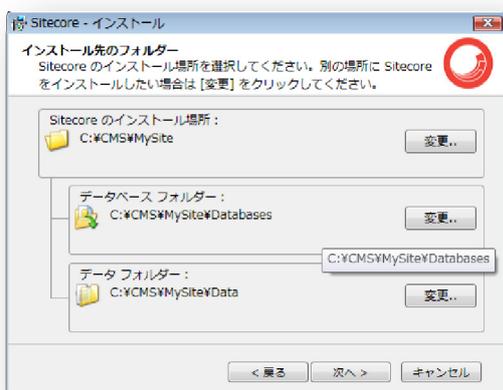
[データベース サーバーとインストールの種類] の手順のところでデータベース ストレージとして [SQL Server] を選択した場合は、以下の手順がインストール ウィザードに表示されます。

## [データベース サーバー]



リストの中から目的のデータベース サーバーを選択するか、[参照] をクリックして、利用できるデータベース サーバーをすべて列挙したリストを表示するかのいずれかを行います。ログイン ID (SQL Server のユーザー名) とそのパスワードを入力します。終了したら [次へ] をクリックします。

## [インストール先のフォルダー]



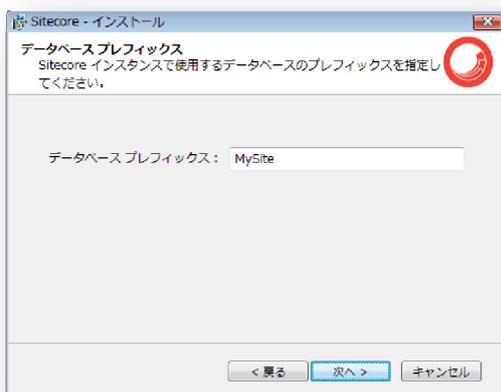
Sitecore CMS の Web サイトのインストール先フォルダーを選択します。データベース フォルダーも、各種データ ファイル (ログ ファイルやパッケージなど) が格納されるフォルダーも変更できます。終了したら [次へ] をクリックします。

## [ファイルのインストール場所]



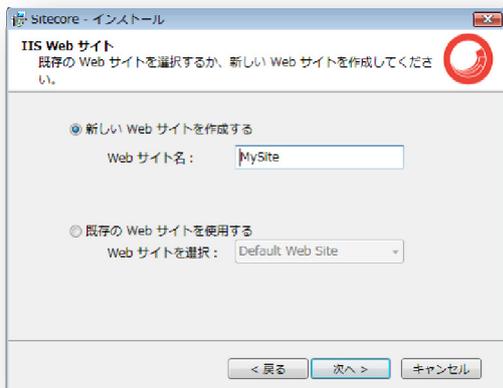
データベース ファイルのデフォルト ロケーションを変更する場合は、[変更] をクリックします。

## [データベース プレフィックス]



Sitecore CMS のこのインスタンス用にデータベースの接頭辞を指定します。

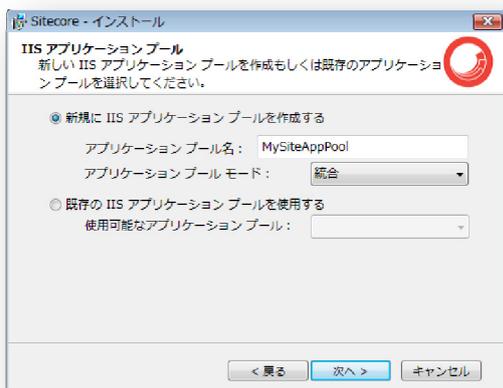
## [IIS Web サイト]



新規 Web サイトを作成する場合は、**[新しい Web サイトを作成する]** をクリックします。

既存の Web サイトを使用する場合は、**[既存の Web サイトを使用する]** を選択します。

新規 Web サイトを作成することにした場合は、IIS アプリケーション プールを作成または選択するよう指示が出ます。

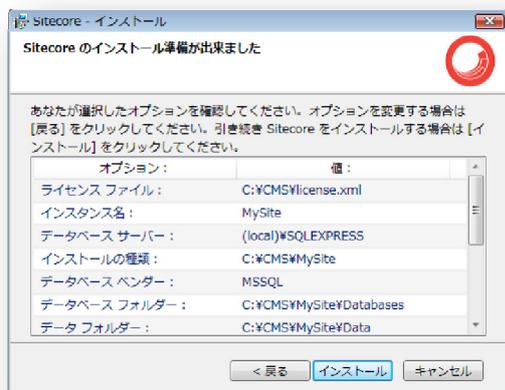


### メモ

既存の Web サイトを選択した場合は、その IIS Web サイトの設定が変化し、Sitecore の新規インスタンスがポイントされるようになります。既存の Web サイトへは、元の名前ではアクセスできなくなります。

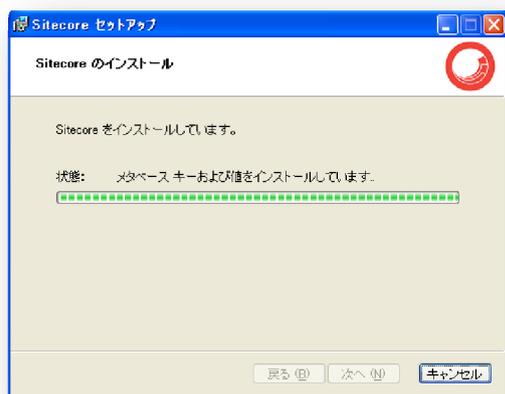
終了したら **[次へ]** をクリックします。

## [Sitecore のインストール準備ができました]



選択したオプションを確認します。[インストール] をクリックすると、Sitecore CMS がインストールされます。

## [Sitecore のインストール]



[次へ] をクリックすると、インストール プロセスの状況を示すウィンドウが表示されます。

## 終了

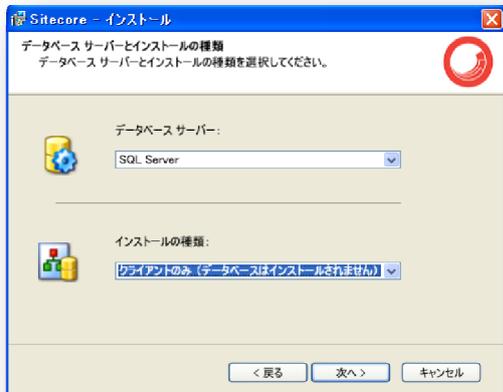


Sitecore インストール ウィザードが終了しました。[完了] をクリックすると、ウィザードが閉じます。

## クライアントのみをインストールする場合

このセクションでは、クライアントのみをインストールする場合について説明します。

### [データベース サーバーとインストールの種類]



データベースを除くすべてをインストールする場合は、インストールの種類として [クライアントのみ] を選択します。

## [データベース サーバー]

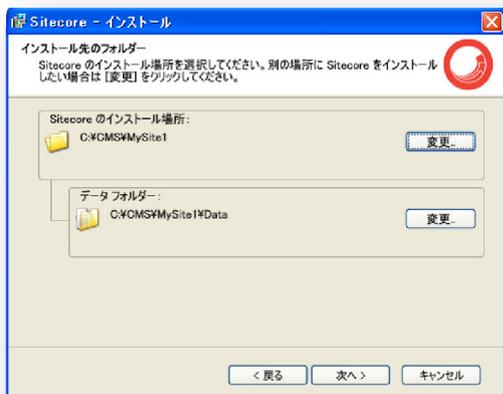


データベース サーバーを選択し（デフォルトではローカル サーバーが選択されています）、サーバーのユーザー ログインとパスワードを入力します。この手順ではデータベースはインストールしませんが、インストール ウィザードによって接続文字列が正しく記述されるよう、この情報は指定する必要があります。

**[接続の有効性をテストします]** チェック ボックスをオフにした場合は、SQL Server へのアクセス許可がなくても、接続の検証を無効にして Sitecore をインストールすることができます。

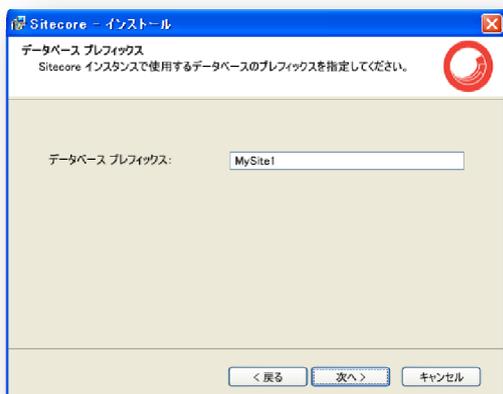
終了したら **[次へ]** をクリックします。

## [インストール先のフォルダー]



Sitecore CMS の Web サイトのインストール先フォルダーを選択します。各種データ ファイル（ログ ファイルやパッケージなど）が格納されるフォルダーも変更できます。終了したら **[次へ]** をクリックします。

## [データベース プレフィックス]



Sitecore データベースのデータベース接頭辞を入力します。この手順ではデータベースはインストールしませんが、インストール ウィザードによって接続文字列が正しく記述されるよう、この情報は指定する必要があります。終了したら **[次へ]** をクリックします。

## [IIS Web サイト]

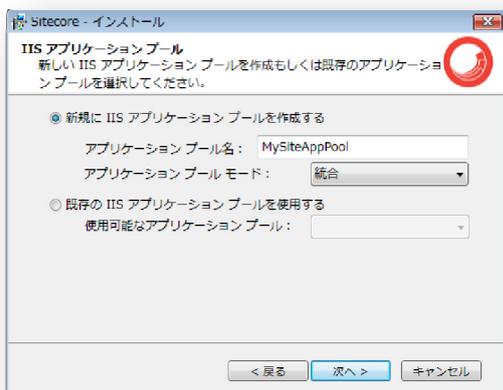


既存の Web サイトを選択するか、適宜オプションを選択して新規 Web サイトを作成するかのいずれかを行います。

新規 Web サイトを作成する場合は、**[新しい Web サイトを作成する]** をクリックします。

既存の Web サイトを使用する場合は、**[既存の Web サイトを使用する]** を選択します。

新規 Web サイトを作成することにした場合は、IIS アプリケーション プールを作成または選択するよう指示が出ます。



#### メモ

既存の Web サイトを選択した場合は、その IIS Web サイトの設定が変化し、Sitecore の新規インスタンスがポイントされるようになります。既存の Web サイトへは、元の名前ではアクセスできなくなります。

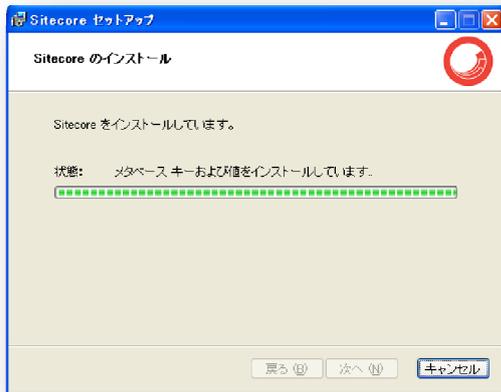
終了したら [次へ] をクリックします。

#### [Sitecore のインストール準備が出来ました]



選択したオプションを確認します。[インストール] をクリックすると、Sitecore CMS がインストールされます。

## [Sitecore のインストール]



[次へ] をクリックすると、インストール プロセスの状況を示すウィンドウが表示されます。

### 終了



Sitecore Installation ウィザードが終了しました。[完了] をクリックすると、ウィザードが閉じます。

## データベースのみをインストールする場合

このセクションでは、データベースのみをインストールする場合について説明します。

## [データベース サーバーとインストールの種類]



データベースのみをインストールする場合は、インストールの種類として **[データベースのみ (クライアントはインストールされません)]** を選択します。

## [データベース サーバー]



リストの中から目的のデータベース サーバーを選択するか、[参照] をクリックして、利用できるデータベース サーバーをすべて列挙したリストを表示するか、いずれかを行います。ログイン ID (SQL Server のユーザー名) とそのパスワードを入力します。終了したら **[次へ]** をクリックします。

## [インストール先のフォルダー]



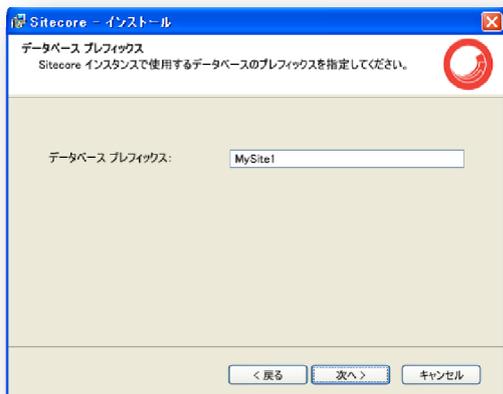
データベースのインストール先を選択します。

## [ファイルのインストール場所]



データベース ファイルのデフォルト ロケーションを変更する場合は、**[変更]** をクリックします。終了したら **[次へ]** をクリックします。

## [データベース プレフィックス]



Sitecore データベースのデータベース接頭辞を入力します。終了したら [次へ] をクリックします。

## [Sitecore のインストール準備が出来ました]



選択したオプションを確認します。終了したら [インストール] をクリックします。

### 3.2.2 Oracle 表領域

Oracle データベース サーバーを使用する場合は、適切な表領域を最初に作成する必要があります。以下の SQL スクリプトを実行すれば、作成できます。

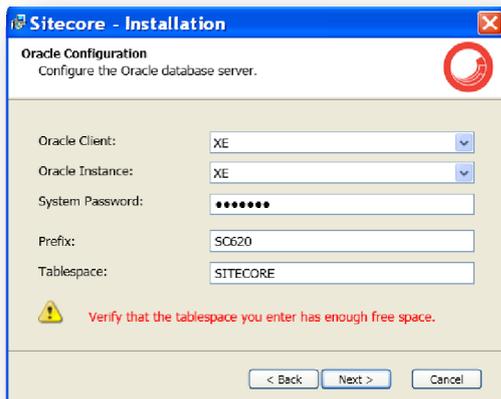
```
create tablespace sitecore logging datafile 'sitecore.dbf' size 200M
reuse autoextend on next 100Mextent management local segment space management auto;
```

### 3.2.3 Oracle

[データベース サーバーとインストールの種類] の手順のところでデータベース ストレージとして [Oracle] を選択した場合は、以下の手順がインストール ウィザードに表示されます。

#### 重要

#### Oracle の設定



Oracle データベース サーバーを設定します。

- **[Oracle Client]**: Oracle クライアントを選択します。
- **[Oracle Instance]**: Oracle インスタンスを選択します。
- **[System Password]**: Oracle インスタンスのシステム ユーザーのためのパスワード。
- **[Prefix]**: ユーザーのスキーマ名とパスワードに使用する接頭辞。
- **[Tablespace]**: Sitecore データ用の表領域の名前。

終了したら **[Next]** をクリックします。

## [インストール先のフォルダー]



Sitecore CMS の Web サイトのインストール先フォルダーを選択します。データベース フォルダも、各種データ ファイル (ログ ファイルやパッケージなど) が格納されるフォルダも変更できます。終了したら [次へ] をクリックします。

## [IIS Web サイト]

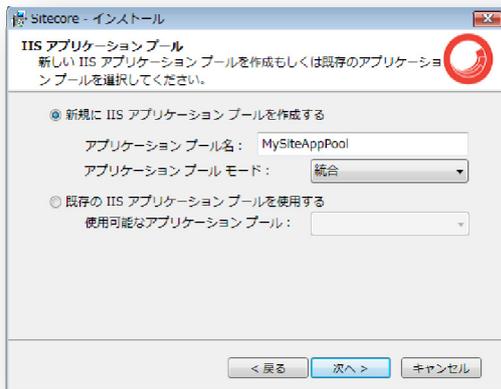


既存の Web サイトを選択するか、適宜オプションを選択して新規 Web サイトを作成するかのいずれかを行います。

新規 Web サイトを作成する場合は、[新しい Web サイトを作成する] をクリックします。

既存の Web サイトを使用する場合は、[既存の Web サイトを使用する] を選択します。

新規 Web サイトを作成することにした場合は、IIS アプリケーション プールを作成または選択するよう指示が出ます。

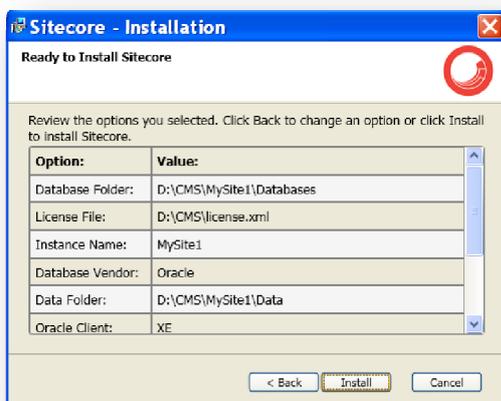


#### メモ

既存の Web サイトを選択した場合は、その IIS Web サイトの設定が変化し、Sitecore の新規インスタンスがポイントされるようになります。既存の Web サイトへは、元の名前ではアクセスできなくなります。

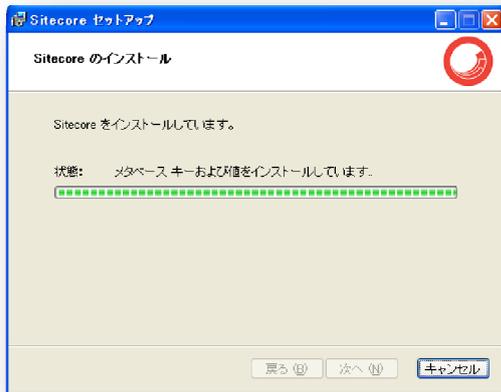
終了したら [次へ] をクリックします。

#### [Ready to Install Sitecore]



選択したオプションを確認します。[Install] をクリックすると、Sitecore CMS がインストールされます。

## [Sitecore のインストール]



[次へ] をクリックすると、インストール プロセスの状況を示すウィンドウが表示されます。

### 終了

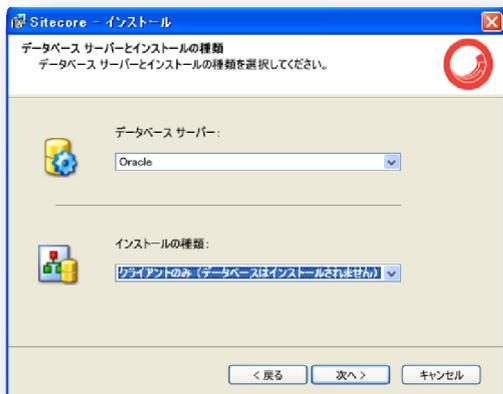


Sitecore Installation ウィザードが終了しました。[完了] をクリックすると、ウィザードが閉じます。

## クライアントのみをインストールする場合

このセクションでは、クライアントのみをインストールする場合について説明します。

## [データベース サーバーとインストールの種類]



データベースを除くすべてをインストールする場合は、インストールの種類として [クライアントのみ (データベースはインストールされません)] を選択します。

## Oracle の設定



Oracle データベース サーバーを設定します。

この手順ではデータベースはインストールしませんが、インストール ウィザードによって接続文字列が正しく記述されるよう、この情報は指定する必要があります。終了したら [Next] をクリックします。

## [インストール先のフォルダー]



Sitecore CMS の Web サイトのインストール先フォルダーを選択します。各種データ ファイル (ログ ファイルやパッケージなど) が格納されるフォルダーも変更できます。終了したら [次へ] をクリックします。

## [IIS Web サイト]

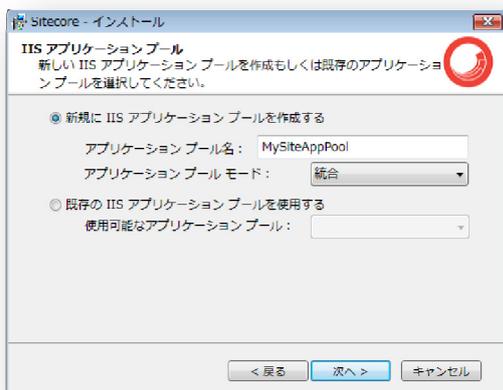


既存の Web サイトを選択するか、適宜オプションを選択して新規 Web サイトを作成するか、いずれかを行います。

新規 Web サイトを作成する場合は、[新しい Web サイトを作成する] をクリックします。

既存の Web サイトを使用する場合は、[既存の Web サイトを使用する] を選択します。

新規 Web サイトを作成することにした場合は、IIS アプリケーション プールを作成または選択するよう指示が出ます。

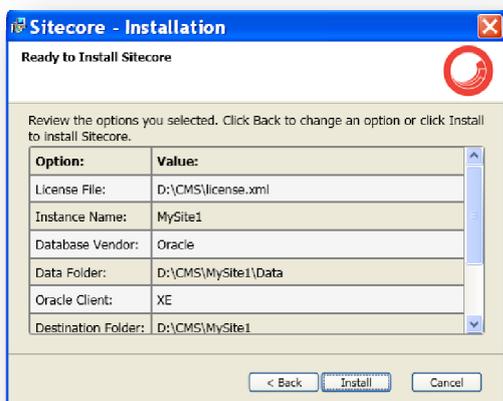


#### メモ

既存の Web サイトを選択した場合は、その IIS Web サイトの設定が変化し、Sitecore の新規インスタンスがポイントされるようになります。既存の Web サイトへは、元の名前ではアクセスできなくなります。

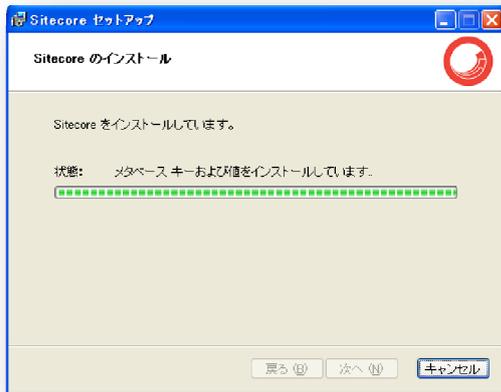
終了したら **[次へ]** をクリックします。

#### [Ready to Install Sitecore]



選択したオプションを確認します。**[Install]** をクリックすると、Sitecore CMS がインストールされます。

## [Sitecore のインストール]



[次へ] をクリックすると、インストール プロセスの状況を示すウィンドウが表示されます。

### 終了

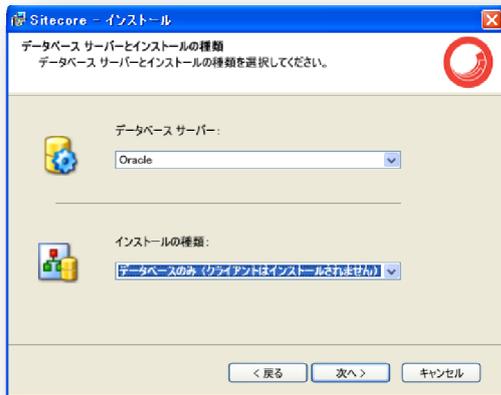


Sitecore Installation ウィザードが終了しました。[完了] をクリックすると、ウィザードが閉じます。

## データベースのみをインストールする場合

このセクションでは、データベースのみをインストールする場合について説明します。

## [データベース サーバーとインストールの種類]



データベースのみをインストールする場合は、インストールの種類として [データベースのみ (クライアントはインストールされません)] を選択します。

### Oracle の設定



Oracle データベース サーバーを設定します。

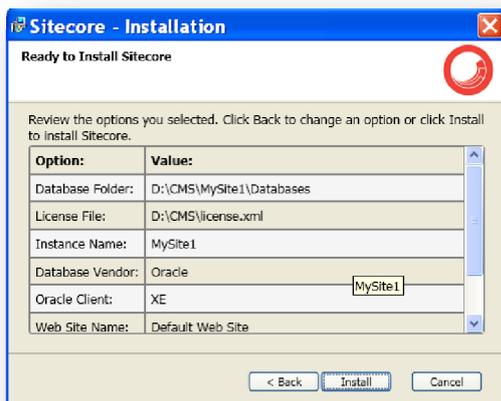
終了したら [Next] をクリックします。

## [インストール先のフォルダー]



データベースのインストール先を選択します。

## [Ready to Install Sitecore]



選択したオプションを確認します。[Install] をクリックすると、Sitecore Oracle データベースがインストールされます。

### 3.3 重要事項

- IIS では、ユーザーに確認することなくインストール プログラムによって ASP.NET のバージョンが自動的に 2.0 に設定されます。その理由は、Sitecore CMS 6 が .NET Framework 3.5 で実行されることにあります。
- Sitecore CMS の設定ファイルは、インストール ウィザードでの設定に応じて自動的に変更されます。

### 3.4 Sitecore のアンインストール

Sitecore をアンインストールする場合は、Windows の [コントロール パネル] にある [プログラムの追加と削除] 機能を使用します。

[プログラムの追加と削除] ウィンドウで、目的のエントリを見つけて [削除] をクリックします。



適宜、SQL Server と IIS サービスを再起動します。

### 3.5 トラブルシューティング

インストール プログラムが正常に機能しない場合は、ログ ファイルをアーカイブしてサポート要求に添付してください。

[Ready to Install Sitecore] ダイアログ ボックスの [Install] をクリックした後にインストール プログラムが正常に機能しなくなった場合は、ログ ファイルが自動的に C:\SitecoreInstaller.log に作成されます。

#### メモ

ログ ファイルは、インストールのたびに作成し直されます。そのため、インストールに失敗したらすぐにログ ファイルをコピーしてください。コピーしなければ、ログ ファイルは上書きされます。

## Chapter 4

### .ZIP ファイルからインストールする

この章では、Web サイト ルートの ZIP アーカイブを使用して Sitecore をインストールする方法を説明します。ZIP アーカイブは、下のページを使用してダウンロードできます。

<http://sdn.sitecore.net/Resources/Sitecore%206.aspx>

この章には次のセクションがあります。

- SQL Server のインストール
- IIS の設定
- フォルダー アクセス許可の設定
- Microsoft SQL Server の設定
- Oracle データベース ストレージのセットアップ
- インストール後の手順
- Sitecore (ZIP インストール) のアンインストール

## 4.1 SQL Server のインストール

このセクションでは、Sitecore CMS サイト ルートの ZIP アーカイブから Sitecore をインストールする方法を説明します。

Sitecore CMS の ZIP アーカイブは、下のページを使用してダウンロードできます。

<http://sdn.sitecore.net/Resources/Sitecore%206.aspx>

Sitecore のインスタンスをインストールする方法:

1. Microsoft .NET Framework V3.5 をインストールします。
2. プロジェクトの親ディレクトリ パスを選択します (例: C:\InetPub\ProjectName)。
3. .zip アーカイブを解凍して以下の各フォルダーを作成します。

```
C:\InetPub\ProjectName\Website  
C:\InetPub\ProjectName\Data  
C:\InetPub\ProjectName\Databases
```

4. 「4.3 フォルダー アクセス許可の設定」の説明どおりにアクセス許可を設定します。

**メモ:** 運用環境以外の環境の場合、一般に一番簡単なのは、ASP.NET アカウントと匿名のインターネット ユーザー アカウントに Website と Data と両方のフォルダー (両フォルダーの子孫も含む) のフル コントロールを付与し、さらに NETWORK SERVICE ユーザーに D:\Sitecore\Databases フォルダーのフル コントロールを付与することです。

5. 該当する license.xml ファイルを /Website/data フォルダーに配置します。ライセンス ファイルの配置場所は、web.config ファイルの以下の設定によって決まります。

```
<setting name="LicenseFile" value="$(dataFolder)/license.xml" />
```

6. SQL Server を実行している場合は、/Website/App\_Config/ フォルダーにある ConnectionStrings.config ファイルを編集します。下の例のように、データベースごとに、該当する値を 1 行で入力します。

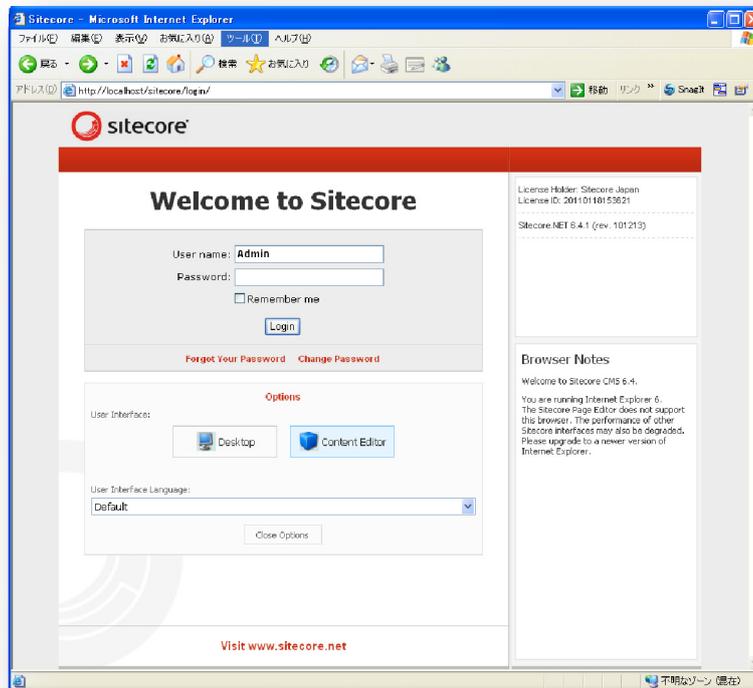
```
<add name="core" connectionString="user  
id=_sql_server_user_;password=_user_password_;Data  
Source=_sqlserver_;Database=_core_database_name_" />
```

7. IIS で、該当する Web サイトのホーム ディレクトリを Website に設定します。
8. [ASP.NET] タブで、[.NET Framework v2.0.XXXXX] が選択されていることを確認します。
9. Sitecore CMS ホストを Internet Explorer の [信頼済みサイト] に追加します。

10. ブラウザーを起動し、以下のアドレスをアドレスバーに入力します。

<http://localhost/sitecore>

Sitecore のログイン画面が表示されます。



管理ユーザーのデフォルト パスワードは "b" です。

## 4.2 IIS の設定

以降の各セクションでは、IIS の各バージョン (バージョン 5、6、7、7.5) を Sitecore CMS 用に設定する方法を説明します。

下のリストは、どのオペレーティング システムで IIS のどのバージョンが使用されるかを示したものです。

- IIS 5: Windows XP
- IIS 6: Windows Server 2003、Windows XP x64
- IIS 7: Windows Vista
- IIS 7.5: Windows 7、Windows Server 2008

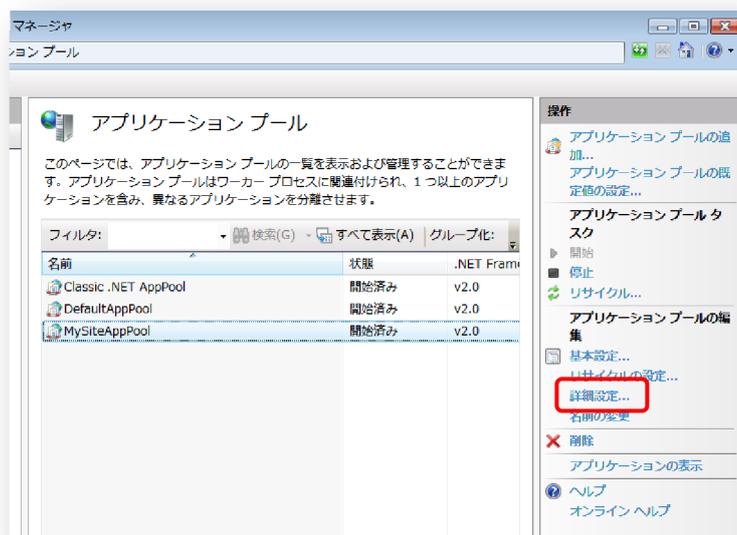
### 4.2.1 IIS 7

このセクションでは、IIS 7 および 7.5 に関する手順を示します。

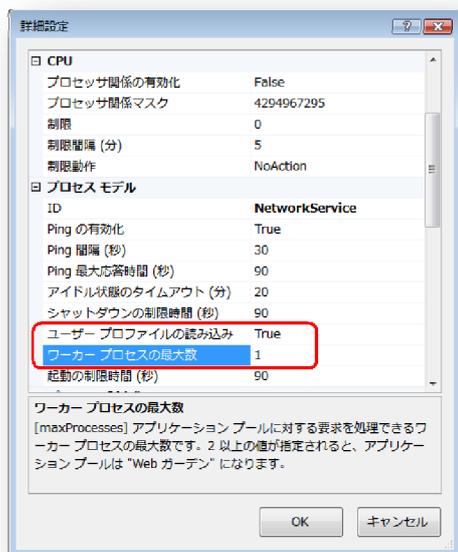
#### アプリケーション プールの設定

IIS 7 または IIS 7.5 (Windows 7、Windows Server 2008) を実行している場合:

1. Sitecore が実行されているアプリケーション プールを選択します。
2. [操作] パネルの [詳細設定] をクリックします。



3. [ワーカー プロセスの最大数] が “1” に設定されていることを確認します。



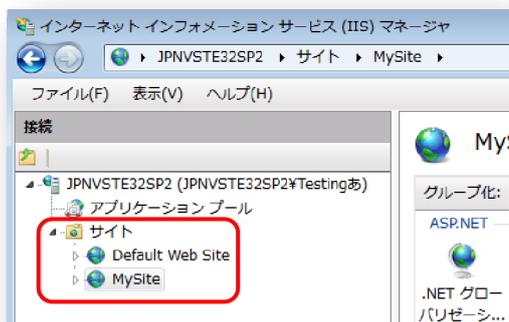
4. [ユーザー プロファイルの読み込み] 設定を [True] に設定します。

暗号化のエラーを避けるためには、この設定が必要です。

## Web サイトの設定

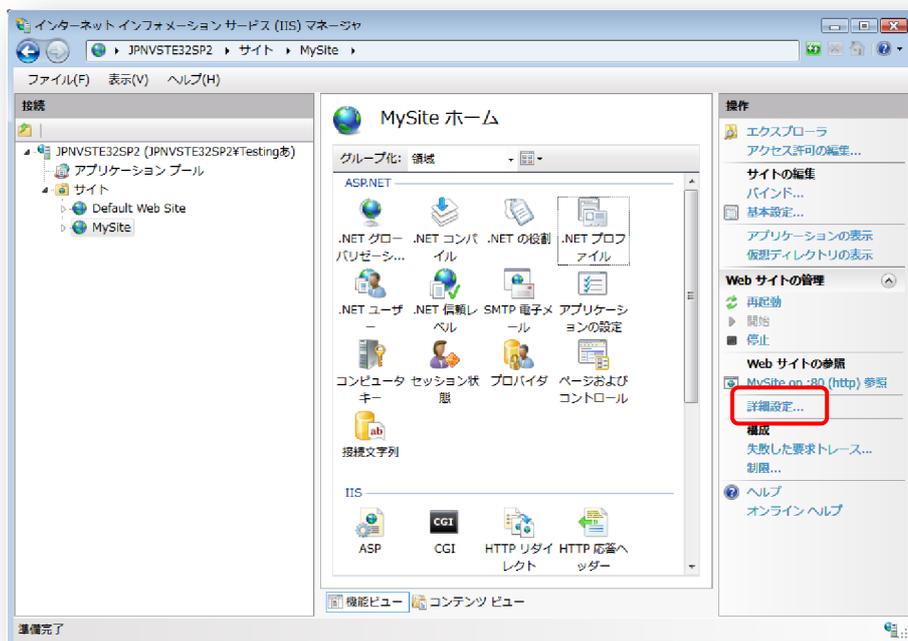
Web サイトを設定するためには、以下の各手順をすべて実行する必要があります。

1. [インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー] を開きます。
2. [インターネット インフォメーション サービス] ウィンドウの [接続] パネルで、[Web サイト] を展開します。



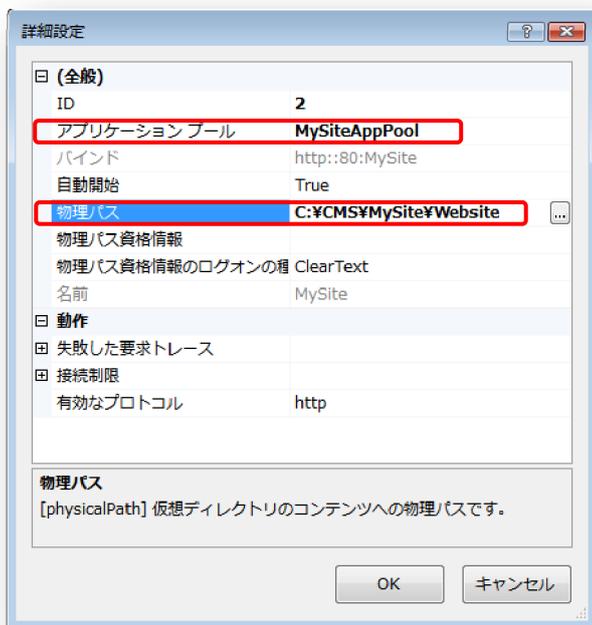
3. Sitecore 用に設定する Web サイトを選択します。

4. [操作] パネルの [詳細設定] をクリックします。



5. C:\InetPub\ProjectName\WebSite\*\*\*update path in the screenshot\*\*\*

Sitecore 用に設定したアプリケーションを [アプリケーション プール] フィールドで選択します。



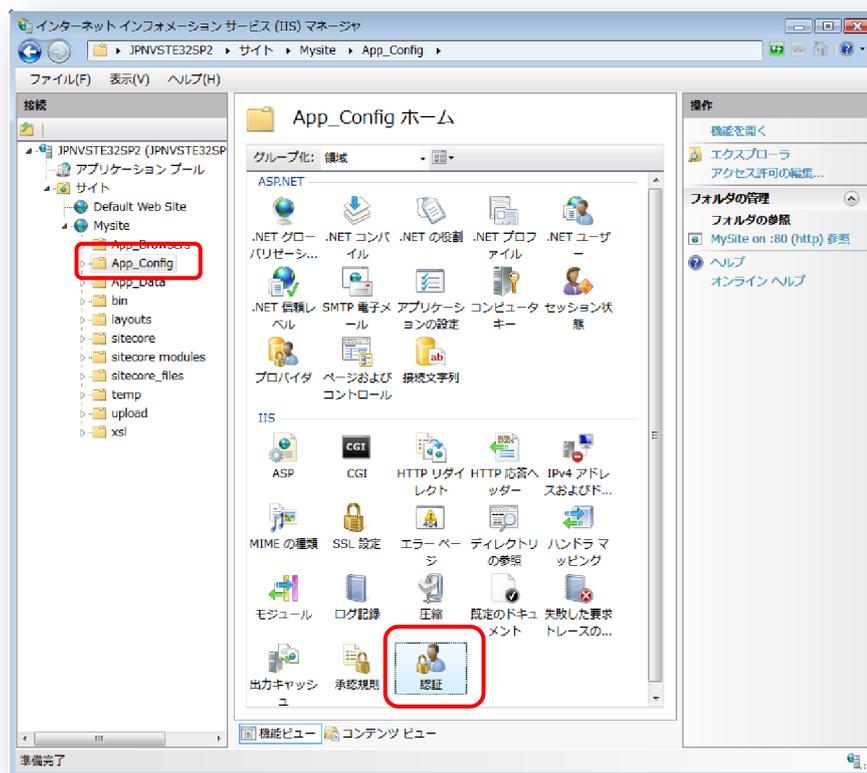
## 匿名ユーザーへのアクセスを制限する

以下のフォルダーについては、匿名ユーザーにはアクセスを許可しないでください。

- /App\_Config
- /sitecore/admin
- /sitecore/debug
- /sitecore/shell/WebService

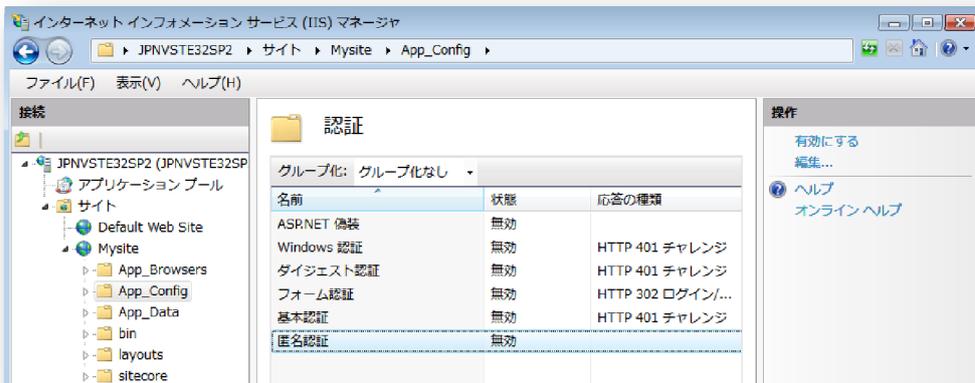
たとえば /App\_Config フォルダーへの匿名アクセスを制限するには、次のようにします。

1. IIS を開きます。
2. [接続] パネルで、自分の Sitecore サイトを参照し、/App\_Config フォルダーを選択します。



3. [App\_Config ホーム] パネルの [認証] をダブルクリックし、このフォルダーの認証設定を行います。

4. [認証] パネルの [匿名認証] が無効になっていることを確認します。



5. 安全な状態にしたい残りすべてのフォルダーについても、手順 2 ~ 4 を繰り返します。
6. IIS を再起動します。

## 4.2.2 IIS 6

このセクションでは、IIS 6 に関する手順を示します。

### アプリケーション プールの設定

アプリケーション プールを設定するには、以下の操作を行う必要があります。

1. Sitecore が実行されているアプリケーション プールを選択します。
2. [プロパティ] ダイアログ ボックスを開きます。
3. [パフォーマンス] タブで、[最大ワーカー プロセス数] が常に "1" であることを確認します。
4. IIS を再起動します。

### Web サイトの設定

Web サイトを設定するためには、以下の各手順をすべて実行する必要があります。

#### メモ

Sitecore は仮想ディレクトリからは稼働できませんので、Sitecore 用の仮想ディレクトリは作成しないでください。

1. [インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー] を開きます。

2. [インターネット インフォメーション サービス] ウィンドウで、[Web サイト] を展開します。
3. Sitecore 用に設定する Web サイトを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
4. [ホーム ディレクトリ] タブの [ローカル パス] フィールドに、WebSite フォルダーへのパスを入力します (例: [C:\InetPub\ProjectName\WebSite])。
5. Sitecore 用に設定したアプリケーションを [アプリケーション プール] フィールドで選択します。

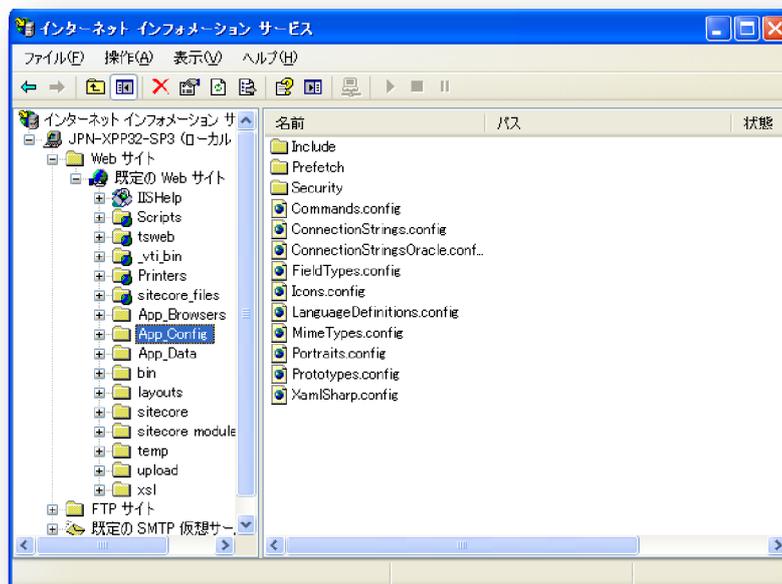
## 匿名ユーザーへのアクセスを制限する

以下のフォルダーについては、匿名ユーザーにはアクセスを許可しないでください。

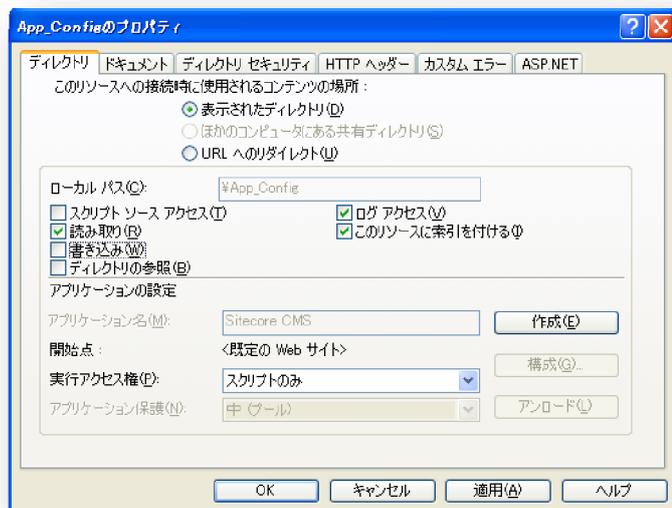
- /App\_Config
- /sitecore/admin
- /sitecore/debug
- /sitecore/shell/WebService

たとえば /App\_Config フォルダーへの匿名アクセスを制限するには、次のようにします。

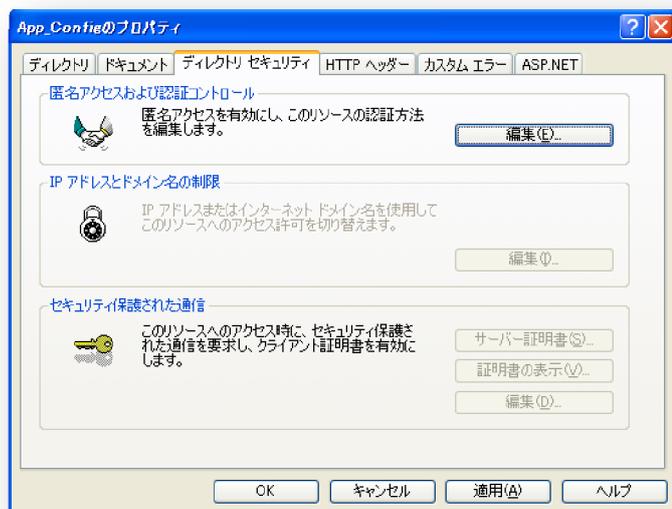
1. IIS を開きます。
2. Web Sites\Default Web Site\App\_Config フォルダーに移動します。



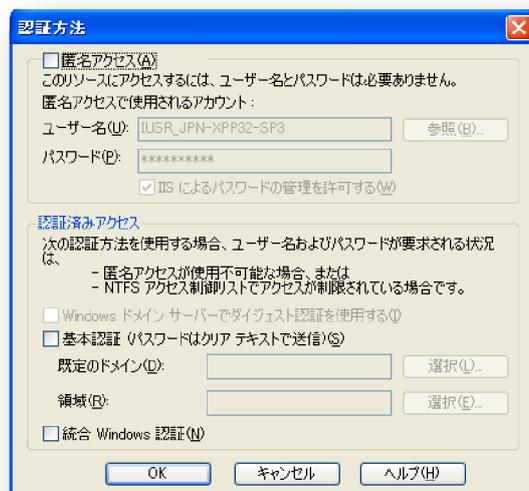
3. [インターネット インフォメーション サービス] ウィンドウで、App\_Config フォルダーを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。



4. [App\_Config のプロパティ] ウィンドウの [ディレクトリ セキュリティ] タブをクリックします。



5. [匿名アクセスおよび認証コントロール] セクションの [編集] をクリックします。



6. [認証方法] ウィンドウの [匿名アクセス] チェック ボックスがオフになっていることを確認します。
5. IIS を再起動します。

該当するフォルダーが他にある場合は、それぞれのフォルダーを対象にこのプロセスを繰り返します。

#### メモ

旧バージョンから Sitecore 6 へアップグレードしてアップグレードの指示に従った場合は、古いファイルはすべて削除されたはずですが、アップグレードの指示に従わなかった場合は、rest.aspx ファイルに匿名アクセスを許可しないようにしてください。このファイルは、/sitecore フォルダーに入っています。

### 4.2.3 IIS 5

このセクションでは、IIS 5 に関する手順を示します。

#### ホーム ディレクトリの設定

Web サイトのホーム ディレクトリを設定するには、以下の手順をすべて実行する必要があります。

#### メモ

Sitecore は仮想ディレクトリからは稼働できませんので、Sitecore 用の仮想ディレクトリは作成しないでください。

1. [インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー] を開きます。
2. [インターネット インフォメーション サービス] ウィンドウで、[Web サイト] を展開します。

3. Sitecore 用に設定する Web サイトを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
4. [ホーム ディレクトリ] タブの [ローカル パス] フィールドに、WebSite フォルダーへのパスを入力します（例：「C:\InetPub\ProjectName\WebSite」）。

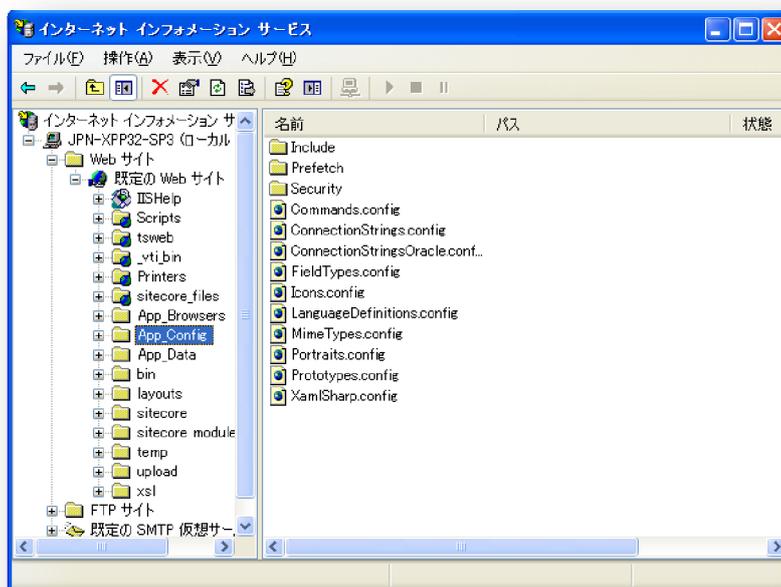
## 匿名ユーザーへのアクセスを制限する

以下のフォルダーについては、匿名ユーザーにはアクセスを許可しないでください。

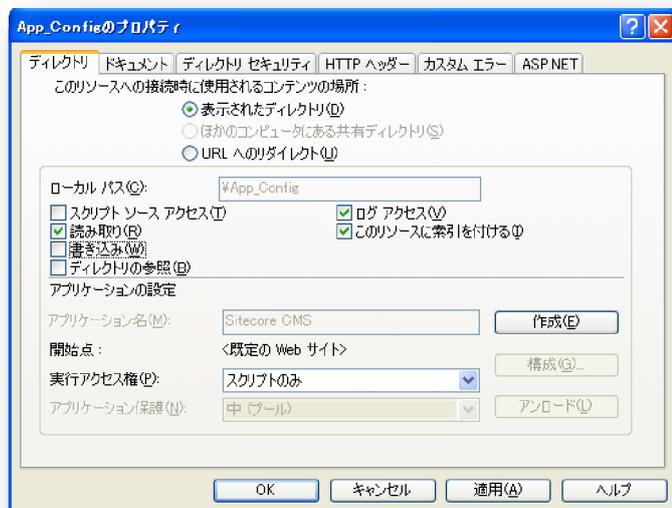
- /App\_Config
- /sitecore/admin
- /sitecore/debug
- /sitecore/shell/WebService

たとえば /App\_Config フォルダーへの匿名アクセスを制限するには、次のようにします。

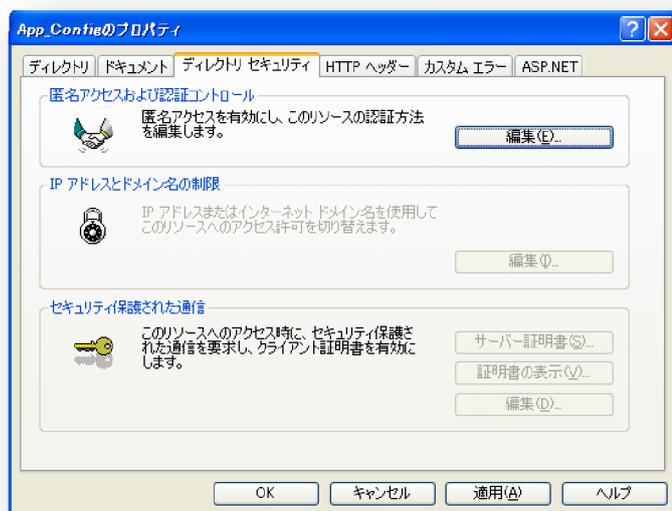
1. IIS を開きます。
2. Web Sites\Default Web Site\App\_Config フォルダーに移動します。



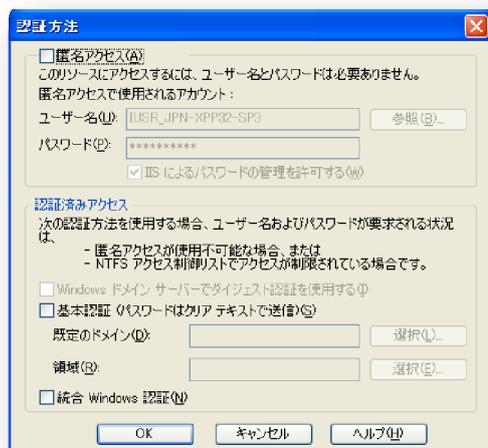
3. [インターネット インフォメーション サービス] ウィンドウで、App\_Config フォルダーを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。



4. [App\_Config のプロパティ] ウィンドウの [ディレクトリ セキュリティ] タブをクリックします。



5. [匿名アクセスおよび認証コントロール] セクションの [編集] をクリックします。



6. [認証方法] ウィンドウの [匿名アクセス] チェック ボックスがオフになっていることを確認します。

6. IIS を再起動します。

該当するフォルダーが他にある場合は、それぞれのフォルダーを対象にこのプロセスを繰り返します。

#### メモ

旧バージョンから Sitecore 6 へアップグレードしてアップグレードの指示に従った場合は、古いファイルはすべて削除されたはずですが、アップグレードの指示に従わなかった場合は、rest.aspx ファイルに匿名アクセスを許可しないようにしてください。このファイルは、/sitecore フォルダーに入っています。

## 4.3 フォルダー アクセス許可の設定

ある種のブラウザー要求（一般には、ディレクトリ参照と静的リソースに対する要求）は、匿名インターネット ユーザー アカウントのアクセス許可を使用して実行されます。このアカウントのデフォルト名が IIS の各バージョンでどのようにになっているかを下の表に示します。

IIS のバージョン	匿名インターネット ユーザー アカウント名
5 および 6	IUSR_* (アスタリスクの部分にはコンピューター名が入ります)
7 および 7.5	IUSR

ASP.NET リソースに対する要求は、ASP.NET のアクセス許可を使用して実行されます。ASP.NET アカウントのデフォルト名が IIS の各バージョンでどのようにになっているかを下の表に示します。

IIS のバージョン	ASP.NET アカウント名
5	ASPNET
6 および 7	NETWORK SERVICE
7.5	AppPoolIdentity

一般に、オペレーティング システムのユーザーとロールに対するアクセス許可がこのマニュアルに規定されていない場合は、拡張されたアクセス許可がたとえ必要になるとしても、そのアクセス許可はファイル システム上に定義しないでください。

### 4.3.1 IIS 7 および 7.5

このセクションでは、IIS 7 および IIS 7.5 における ASP.NET アカウントと IUSR アカウントに付与すべきアクセス許可を示します。

#### ASP.NET アカウント

このセクションでは、ASP.NET アカウントに付与すべきアクセス許可を示します。

ASP.NET アカウントは、**IIS 7** では "**NETWORK SERVICE**" と呼ばれ、**IIS 7.5** では、特に指定しない限り "**AppPoolIdentity**" と呼ばれます。IIS 7.5 では、ASP.NET アカウントの名前は変更できます。

ASP.NET ユーザーは、Website より上にあるすべてのディレクトリに対して、[フォルダーの内容の一覧表示] のアクセス許可を所有している必要があります。たとえば C:\InetPub\ProjectName の場合は、C:\InetPub についてはもちろんのこと、ProjectName より上にあるすべてのフォルダー上でアクセス許可を付与しなければならないことがあります。アプリケーション コードがデバッグ フォルダー内に生成される場合は、ASP.NET の動的コンパイルにこの処理が必要となります。詳細については、<http://support.microsoft.com/kb/317012> を参照してください。

下の表には、アクセス許可を設定すべきフォルダーと適切なアクセス許可を示しました。

下の表の "**デフォルト ロケーション**" は、Website より上のフォルダーへの相対パスです。たとえば、Sitecore アーカイブの解凍先が C:\InetPub\ProjectName である場合、\Data\logs は C:\InetPub\ProjectName\Data\logs のことです。

デフォルト ロケーション	必要なアクセス許可	Web.config の設定、備考
¥Data¥	読み取りと書き込み	Web.config の設定: dataFolder
¥Data¥Audit¥ ¥Data¥diagnostics¥ ¥Data¥logs¥ ¥Data¥viewstate¥	変更	各フォルダーのロケーションは、dataFolder 変数によって間接的に定義されます。
¥Data¥indexes¥	変更	Web.config の設定: IndexFolder  特に指定しない限り、このロケーションは dataFolder 変数によって定義されます。  検索インデックスを管理する手段として、このフォルダーに対する変更アクセス許可が必要です。
¥Databases¥	フル コントロール	
¥Website¥App_Data¥	読み取りと書き込み	このフォルダーが使用されるすべて環境で、左記のアクセス許可が必要です。

デフォルト ロケーション	必要なアクセス許可	Web.config の設定、備考
¥Website¥App_Data¥MediaCache	変更	Web.config の設定: Media.CacheFolder
¥Website¥layouts¥	読み取りと書き込み	Web.config の設定: LayoutFolder  レイアウトとサブレイアウトの作成、変更 にデベロッパー センターを使用する場合 は、左記のアクセス許可が必要です。
¥Website¥sitecore¥shell¥Applications¥debug¥  ¥Website¥sitecore¥shell¥Controls¥debug¥	変更	CMS ユーザーの認証が行われるすべ て Sitecore 環境 (コンテンツ配信とラ ンタイム サーバーを除くおよそすべての 環境) で、左記のアクセス許可が必要 です。このディレクトリがない場合は作 成してください。
¥Website¥temp¥	読み取りと書き込み	Web.config の設定: tempFolder
¥Website¥upload¥	読み取りと書き込み	ユーザーが対話操作でメディアをアップ ロードするすべての Sitecore 環境に、 左記のアクセス許可が必要です。
¥Website¥xsl¥	読み取りと書き込み	XSL レンダリングの作成、変更でデベ ロッパー センターを使用する場合は、左 記のアクセス許可が必要です。

**メモ**

web.config の <controlSources> セクションにおけるフォルダー参照はすべて、当該フォルダーの下にある /debug フォルダーに対する変更アクセス許可が必要です。

上記のアクセス許可とは別に、汎用 ASP.NET アプリケーションで使用できる以下のようなシステム フォルダーに属するアプリケーション プールの ID として使用されるアカウントには、専用のアクセス許可が必要です。

デフォルト ロケーション	必要なアクセス許可	説明
%WINDIR%\temp¥	読み取りと書き込み	
%WINDIR%\assembly¥	変更	
%WINDIR%\Microsoft.NET\Framework64\v2.0.50727\Temporary ASP.NET Files¥	変更	
%WINDIR%\Globalization¥	フル コントロール	カスタム言語を .NET Framework に正しく登録するためには、左記のアクセス許可が必要です。
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Control¥Nls	フル コントロール	カスタム言語を .NET Framework に正しく登録するためには、左記のアクセス許可が必要です。
<b>メモ:</b> これはレジストリ キーです。		

## 匿名インターネット ユーザー アカウント

このセクションでは、匿名インターネット ユーザー アカウントに付与すべきアクセス許可を示します。

このアカウントは、**IIS 7 および IIS 7.5** では "IUSR" と呼ばれます (アスタリスクの部分にはコンピューター名が入ります)。

下の表には、アクセス許可を設定すべきフォルダーと適切なアクセス許可を示しました。

下の表の "デフォルト ロケーション" は、Website より上のフォルダーへの相対パスです。たとえば、Sitecore アーカイブの解凍先が C:\InetPub\ProjectName である場合、\Data\logs は C:\InetPub\ProjectName\Data\logs のことです。

デフォルト ロケーション	必要なアクセス許可	Web.config の設定、備考
¥Website¥ と、そのすべての子孫	読み取りと実行	

デフォルト ロケーション	必要なアクセス許可	Web.config の設定、備考
¥Data¥indexes¥	変更	Web.config の設定: IndexFolder  特に指定しない限り、このロケーションは dataFolder 変数によって定義され ます。  検索インデックスを管理する手段として、 このフォルダーに対する変更アクセス許可 が必要です。
¥Data¥Audit¥  ¥Data¥diagnostics¥  ¥Data¥logs¥  ¥Data¥viewstate¥	変更	各フォルダーのロケーションは、 dataFolder 変数によって間接的に 定義されます。
¥Website¥App_Data¥	読み取りと書き込み	このフォルダーが使用されるすべて環境 で、左記のアクセス許可が必要です。
¥Website¥App_Data¥MediaCache	変更	Web.config の設定: Media.CacheFolder

### 4.3.2 IIS 5 および 6

このセクションでは、IIS 5 および IIS 6 における ASP.NET アカウントと IUSR\_\* アカウントに付与すべきアクセス許可を示します。

#### ASP.NET アカウント

このセクションでは、ASP.NET アカウントに付与すべきアクセス許可を示します。

ASP.NET アカウントは、**IIS 5** では "**ASPNET**" と呼ばれ、**IIS 6** では "**NETWORK SERVICE**" と呼ばれます。

ASP.NET ユーザーは、Website より上にあるすべてのディレクトリに対して、[フォルダーの内容の一覧表示] のアクセス許可を所有している必要があります。たとえば C:\InetPub\ProjectName の場合は、C:\InetPub についてはもちろんのこと、

ProjectName より上にあるすべてのフォルダー上でアクセス許可を付与しなければならないことがあります。アプリケーション コードがデバッグ フォルダー内に生成される場合は、ASP.NET の動的コンパイルにこの処理が必要となります。詳細については、<http://support.microsoft.com/kb/317012> を参照してください。

下の表には、アクセス許可を設定すべきフォルダーと適切なアクセス許可を示しました。

下の表の "デフォルト ロケーション" は、Website より上のフォルダーへの相対パスです。たとえば、Sitecore アーカイブの解凍先が C:\InetPub\ProjectName である場合、\Data\logs は C:\InetPub\ProjectName\Data\logs のことです。

デフォルト ロケーション	必要なアクセス許可	Web.config の設定、備考
¥Data¥	読み取りと書き込み	Web.config の設定: dataFolder
¥Data¥Audit¥ ¥Data¥diagnostics¥ ¥Data¥logs¥ ¥Data¥viewstate¥	変更	各フォルダーのロケーションは、dataFolder 変数によって間接的に定義されます。
¥Data¥indexes¥	変更	Web.config の設定: IndexFolder  特に指定しない限り、このロケーションは dataFolder 変数によって定義されます。  検索インデックスを管理する手段として、このフォルダーに対する変更アクセス許可が必要です。

デフォルト ロケーション	必要なアクセス許可	Web.config の設定、備考
¥Databases¥	フル コントロール	<b>メモ</b> このフォルダーに対するアクセス許可は、IIS 5 の ASPNET ユーザーではなく NETWORK SERVICE ユーザーに付与する必要があります。
¥Website¥App_Data¥	読み取りと書き込み	このフォルダーが使用されるすべての環境で、左記のアクセス許可が必要です。
¥Website¥App_Data¥MediaCache	変更	Web.config の設定: Media.CacheFolder
¥Website¥layouts¥	読み取りと書き込み	Web.config の設定: LayoutFolder  レイアウトとサブレイアウトの作成、変更にはデベロッパー センターを使用する場合は、左記のアクセス許可が必要です。
¥Website¥sitecore¥shell¥Applications¥debug¥  ¥Website¥sitecore¥shell¥Controls¥debug¥	変更	CMS ユーザーの認証が行われるすべての Sitecore 環境 (コンテンツ配信とランタイム サーバーを除くおおよそすべての環境) で、左記のアクセス許可が必要です。このディレクトリがない場合は作成してください。
¥Website¥temp¥	読み取りと書き込み	Web.config の設定: tempFolder
¥Website¥upload¥	読み取りと書き込み	ユーザーが対話操作でメディアをアップロードするすべての Sitecore 環境に、左記のアクセス許可が必要です。

デフォルト ロケーション	必要なアクセス許可	Web.config の設定、備考
¥Website¥xsl¥	読み取りと書き込み	XSL レンダリングの作成、変更にてペロッパー センターを使用する場合は、左記のアクセス許可が必要です。

**メモ**

web.config の <controlSources> セクションにおけるフォルダー参照はすべて、当該フォルダーの下にある /debug フォルダに対する変更アクセス許可が必要です。

上記のアクセス許可とは別に、汎用 ASP.NET アプリケーションで使用できる以下のようなシステム フォルダに属するアプリケーション プールの ID として使用されるアカウントには、専用のアクセス許可が必要です。

デフォルト ロケーション	必要なアクセス許可	説明
%WINDIR%¥temp¥	読み取りと書き込み	
¥Documents and Settings¥_ServerName_¥ASPNET¥Local settings¥Temp¥	読み取りと書き込み	
%WINDIR%¥assembly¥	変更	
%WINDIR%¥Microsoft.NET¥Framework64¥v2.0.50727¥Temporary ASP.NET Files¥	変更	
%WINDIR%¥Globalization¥	フル コントロール	カスタム言語を .NET Framework に正しく登録するためには、左記のアクセス許可が必要です。
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControl Set¥Control¥Nls	フル コントロール	カスタム言語を .NET Framework に正しく登録するためには、左記のアクセス許可が必要です。

**メモ:** これはレジストリ キーです。

## 匿名インターネット ユーザー アカウント

このセクションでは、匿名インターネット ユーザー アカウントに付与すべきアクセス許可を示します。

このアカウントは、**IIS 5 および IIS 6** では "IUSR\_\*" と呼ばれます (アスタリスクの部分にはコンピューター名が入ります)。

下の表には、アクセス許可を設定すべきフォルダーと適切なアクセス許可を示しました。

下の表の "**デフォルト ロケーション**" は、Website より上のフォルダーへの相対パスです。たとえば、Sitecore アーカイブの解凍先が C:\InetPub\ProjectName である場合、\Data\logs は C:\InetPub\ProjectName\Data\logs のことです。

デフォルト ロケーション	必要なアクセス許可	Web.config の設定、備考
¥Website¥ と、そのすべての子孫	読み取りと実行	
¥Data¥indexes¥	変更	Web.config の設定: IndexFolder  特に指定しない限り、このロケーションは dataFolder 変数によって定義されます。  検索インデックスを管理する手段として、このフォルダーに対する変更アクセス許可が必要です。
¥Data¥Audit¥  ¥Data¥diagnostics¥  ¥Data¥logs¥  ¥Data¥viewstate¥	変更	各フォルダーのロケーションは、dataFolder 変数によって間接的に定義されます。
¥Website¥App_Data¥	読み取りと書き込み	このフォルダーが使用されるすべて環境で、左記のアクセス許可が必要です。
¥Website¥App_Data¥MediaCache	変更	Web.config の設定: Media.CacheFolder

## 4.4 Microsoft SQL Server の設定

Microsoft SQL Server をインストールするときには、**[混合モード]** 認証 (Windows 認証と SQL Server 認証を組み合わせた認証) を選択する必要があります。

MS SQL がインストール済みで、セキュリティ認証モードを変更する必要がある場合は、以下のリンクにある解説を参照してください。

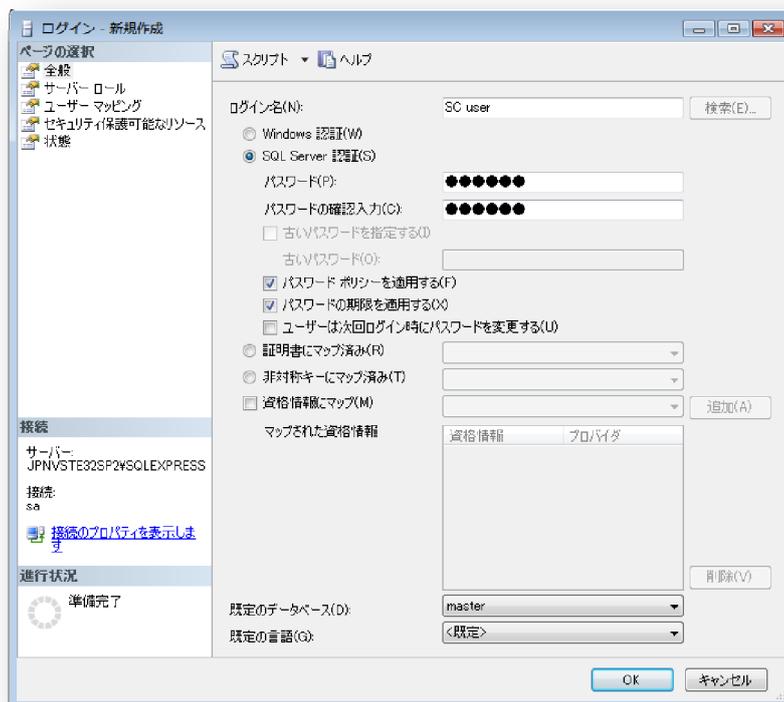
<http://technet.microsoft.com/en-us/library/ms188670.aspx>

### 4.4.1 SQL Server 2008 に Sitecore CMS データベース用のデータベース アカウントを作成する

このセクションでは、必要最小限のアクセス許可を使用して SQL Server 2005 に Sitecore データベース用のデータベース アカウントを作成する方法を説明します。

1. SQL Server Management Studio Express を起動します。
2. Sitecore データベースがアタッチされていることを確認します。
3. SQL Server Management Studio Express の **[オブジェクト エクスプローラー]** ペインで、**[セキュリティ]** フォルダーを展開します。

4. [ログイン] フォルダーを右クリックし、[新しいログイン] をクリックし、新しいログインを作成します。



5. [ログイン - 新規作成] ウィンドウで、[全般] ページを選択し、ログイン名を指定します。
6. [SQL Server 認証] をクリックし、[ユーザーは次回ログイン時にパスワードを変更する] チェック ボックスをオフにします (このオプションは、一部の Windows オペレーティング システムでは利用できません)。
7. [ユーザー マッピング] ページを選択し、[このログインにマップされたユーザー] フィールドで Sitecore データベースを選択します。
8. [データベース ロール メンバーシップ] フィールドで、以下のチェック ボックスをオンにします。

master データベースおよび web データベースの場合: [db\_datareader]、[db\_datawriter]、[public]

core データベースの場合:

[db\_datareader]

[db\_datawriter]

[public]

[aspnet\_Membership\_BasicAccess]

[aspnet\_Membership\_FullAccess]

[aspnet\_Membership\_ReportingAccess]

[aspnet\_Profile\_BasicAccess]

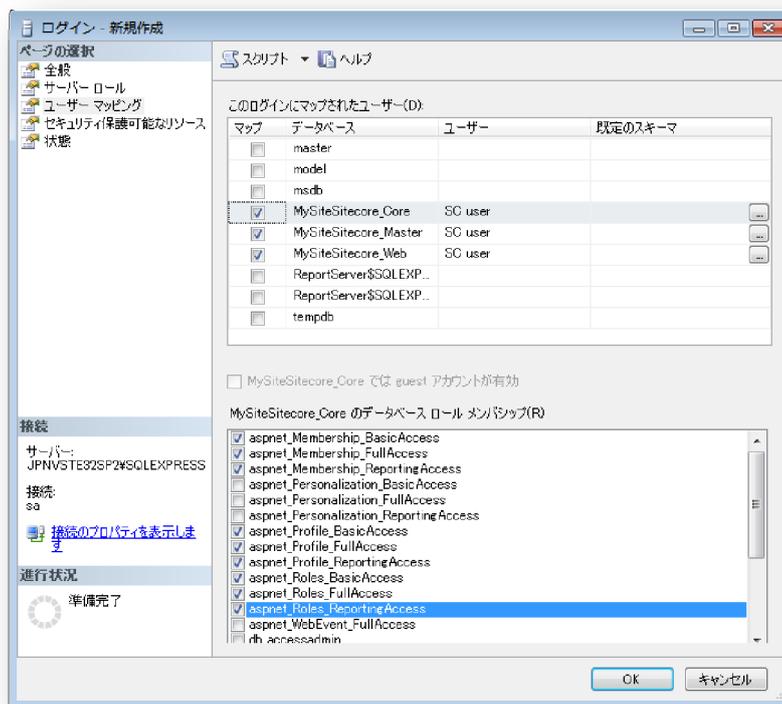
[aspnet\_Profile\_FullAccess]

[aspnet\_Profile\_ReportingAccess]

[aspnet\_Roles\_BasicAccess]

[aspnet\_Roles\_FullAccess]

[aspnet\_Roles\_ReportingAccess]

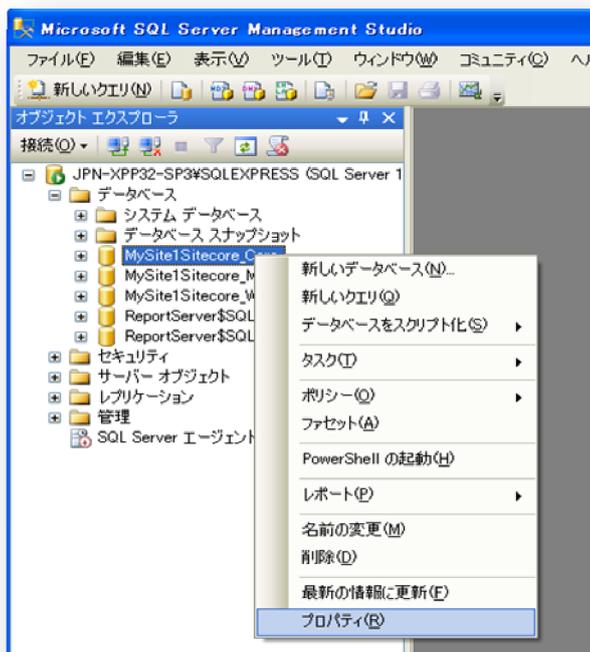


9. [OK] をクリックすると、ユーザーが作成されます。

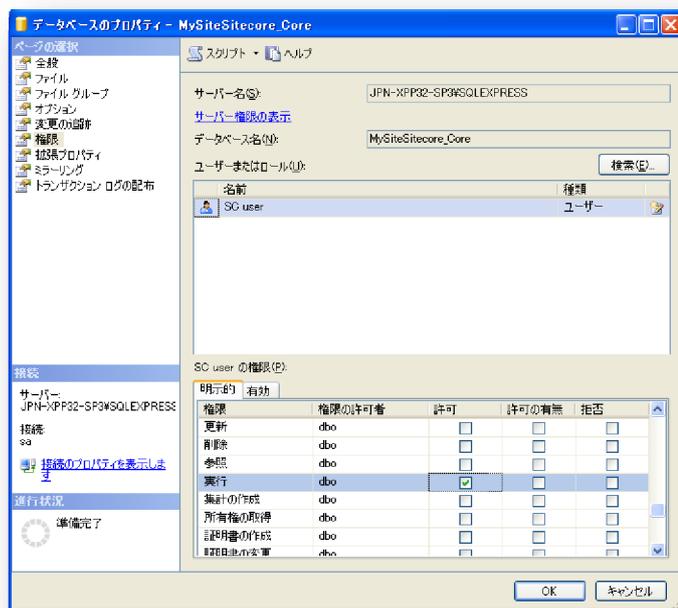
## ストアド プロシージャの実行権限を付与する

ストアド プロシージャの実行権限を付与する方法:

1. [Microsoft **SQL Server Management Studio**] ウィンドウで、[データベース] フォルダを展開します。
2. どれか Sitecore データベースを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。



3. [データベースのプロパティ] ウィンドウで、[権限] セクションを選択し、どのユーザーに権限を付与するのかが選択します。



4. [ユーザーまたはロール] フィールドで目的のユーザーを選択し、[明示的な権限] フィールドの [許可] 列で、そのユーザーに [実行] 権限を付与します。

該当する Sitecore CMS データベースが他にある場合は、それぞれの Sitecore CMS データベースを対象にこの手順を繰り返します。

## 4.5 Oracle データベース ストレージのセットアップ

このセクションでは、Sitecore CMS 用に Oracle データベース ストレージをセットアップする方法を説明します。

### 4.5.1 Oracle ストレージのセットアップ

このセクションでは、Oracle データベースと組み合わせた Sitecore CMS のセットアップについて詳述します。

#### データベース サーバーの準備

データベース サーバーは、以下の要件を満たす Oracle 10g 以降のデータベース インスタンスでなければなりません。

1. Oracle インスタンスは、共有サーバー モードで設定する必要があります。
2. Oracle インスタンスには、Sitecore 用の表領域として 200 MB 以上の空き領域を最初に与える必要があります。Sitecore データベースが大きくなるにつれて、必要な領域は増えます。Oracle データベース サーバー (または Oracle 用の管理ツールを備えたワークステーション PC) で以下の手順を実行して、Sitecore CMS 用に Oracle データベースを設定してください。
3. Sitecore CMS データベースをインストールします (\* セットアップ用の実行可能ファイル DB.exe、バージョン 6.0.2 以降)。Sitecore 6 のインストールされたシステムから /Databases/Oracle フォルダをコピーする方法でも同じ結果が得られます。
4. 以下の手順で Sitecore データを Oracle データベースにロードします。
  - a. コンピューターの [システムのプロパティ] から [詳細設定]、[環境変数] の順に開いて、以下のようにユーザーレベル変数をセットアップします。  
DATABASE = Sitecore データをホストする Oracle データベース インスタンスの名前 (PC 上でセットアップされた Oracle データベース インスタンス)  
TBS = Sitecore データ用の表領域の名前  
PASSWORD = Oracle インスタンスのシステム ユーザーのためのパスワード  
PREFIX = ユーザーのスキーマ名とパスワードに使用する接頭辞 (デフォルトは sc)
  - b. /Databases/Oracle/ フォルダから createdata.bat ファイルを起動します。
  - c. DATABASE、TBS、PASSWORD、PREFIX の各変数を環境から削除します。

インストール スクリプトによって、%PREFIX%core、%PREFIX%master、%PREFIX%web という 3 つのユーザー スキーマ (デフォルトは, sccore、scmaster、scweb) がセットアップされます。ユーザー パスワードはユーザー名と同一です。

## Website サーバーのセットアップ手順

以下の手順は、Sitecore CMS ファイル システムがホストされる Web サーバーのセットアップについて説明したものです。

1. Oracle データベースのバージョンに対応した Oracle クライアントをインストールします。Oracle Data Provider for .NET 2.0 がインストールされていることを確認します。「データベース サーバーの準備」セクションの説明に従って作成した適切な Oracle インスタンスへの接続を追加します。このトピックの詳細な手順については、「**Oracle インスタンスへの接続を追加する**」セクションを参照してください。  
**メモ:** 64 ビット環境に Oracle Data Provider をインストールする場合は、必ず Windows x64 に対応した Oracle クライアントを使用してください。
2. Sitecore CMS 6 をインストールします。セットアップ用の実行可能ファイルではなく ZIP アーカイブから Sitecore をインストールする場合は、以降の各手順に進む前に、dataFolder を設定して、有効な license.xml ファイルをそのデータフォルダーに置いてください。
3. Web.config から Web.config.Oracle に dataFolder 変数定義をコピーします。  
例: `<sc.variable name="dataFolder" value="c:¥sitecore¥data"/>`
4. Web.config.Oracle の **runtime/assemblyBinding** セクションにある **bindingRedirect** を、お使いのシステムにインストールされている Oracle.DataAccess アセンブリ バージョンに設定します。
  - a. Windows キーを押しながら R キーを押して [ファイル名を指定して実行] コンソールを開き、そのコマンドプロンプトで "assembly" コマンドを実行して、グローバル アセンブリ キャッシュを開きます。
  - b. お使いの Oracle クライアントのバージョンに対応した Oracle.DataAccess.dll を見つけて右クリックし、[プロパティ] をクリックし、以下のいずれかの形式で記述されたバージョン番号をコピーします。
    - i. 10.2.x.x (Oracle クライアントのバージョンが 10.2.0.2 よりも古い場合)
    - ii. 2.102.x.x または 2.111.x.x (Oracle クライアントのバージョンが 10.2.0.2 およびそれ以降の場合)
  - c. assemblyBinding 設定を変更します。下に示したように、10.2.0.100 を、お使いのアセンブリバージョンに置き換えます。

```
<dependentAssembly>
  <assemblyIdentity name="Oracle.DataAccess"
    publicKeyToken="89b483f429c47342"/>
  <bindingRedirect oldVersion="9.2.0.401" newVersion="10.2.0.100"/>
</dependentAssembly>
```
5. 最初の Web.config をバックアップし、Web.config.Oracle の名前を Web.config に変更します。

6. 有効な Oracle インスタンスがポイントされるよう、/App\_Config/ConnectionStringsOracle.config にある接続文字列を変更します。
  - a. Data Source パラメーターは、Oracle Net Manager で設定したローカル Oracle インスタンス名をポイントしなければなりません。
  - b. ユーザー名およびパスワードは、データベース サーバーにインストールされたものに合わせて調整する必要があります。ユーザー名/パスワードのデフォルトの組み合わせは、score/score、scmaster/scmaster、scweb/scweb です。
  
7. Sitecore を普通にインストールした場合と同じように IIS を設定し、Sitecore を実行します。

## 4.6 インストール後の手順

このセクションでは、Sitecore CMS の Web ルートとデータベースをインストールした後に推奨される手順を説明します。

### 4.6.1 検索インデックスとリンク データベースを構築し直す

core データベース用の検索インデックスだけでなく、高速検索インデックスも構築し直してください。

検索インデックスを構築し直す場合は、Sitecore のデスクトップにログインし、[コントロール パネル]、[データベース]、[Rebuild the Search Index] の順にクリックします。利用できるデータベースをすべて選択してください。

リンク データベースを構築し直す場合は、Sitecore のデスクトップにログインし、[コントロール パネル]、[データベース]、[Rebuild the Link Database] の順にクリックします。利用できるデータベースをすべて選択してください。

## 4.7 Sitecore (ZIP インストール) のアンインストール

Sitecore をアンインストールする前に、IIS Web サイトを削除するか、別のディレクトリを参照するように IIS Web サイトを更新するか、下のコマンドを実行して IIS を停止するか、いずれかを行ってください。

```
net stop w3svc
```

次のようにして SQL Server のプロセスを停止します。

- SQL Server Express の場合: `net stop "sql server (sqlexpress)"`
- Express エディション以外の SQL Server の場合: `net stop "sql server (mssqlserver)"`

Sitecore のファイル システムを削除します。

Sitecore のこのインスタンスに使用されるデータベースについては、リモート サーバー上にあるものもローカル サーバー上にあるものも一切削除してください。

## Chapter 5

### 制約事項と個別の要件

この章では、さまざまな制約事項と環境ごとの要件を示します。

この章には次のセクションがあります。

- OS ごとの要件
- フォルダー セキュリティの設定
- 最大ワーカー プロセス数
- ブラウザーごとの要件
- その他

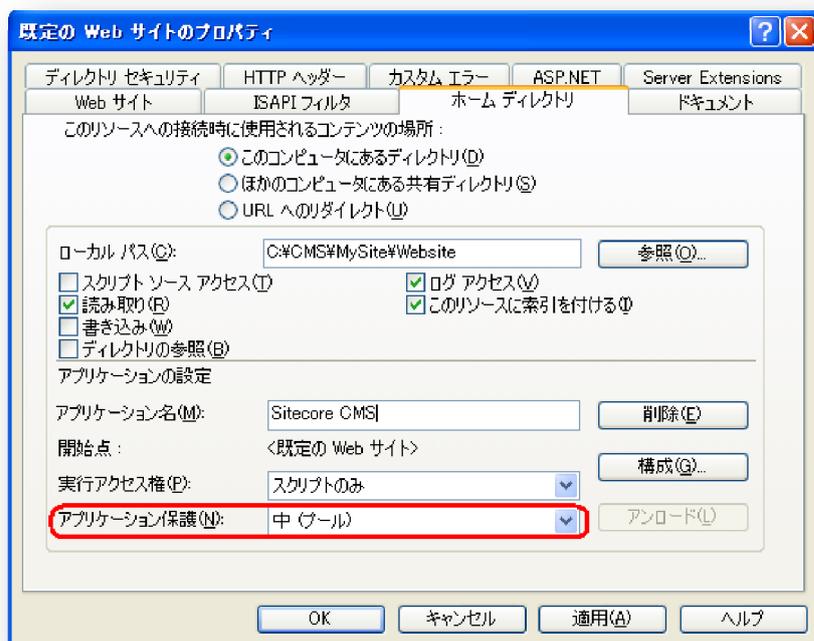
## 5.1 OS ごとの要件

このセクションでは、オペレーティング システムに関する要件を示します。

### 5.1.1 Windows XP

Windows XP を実行している場合は、以下のように設定してください。

[アプリケーション保護] フィールドで [中 (プール)] を選択します。



アプリケーション保護には 3 段階ありますが、そのいずれでも Sitecore は申し分なく機能します。[中 (プール)] を推奨する理由は、[高 (分離プロセス)] よりもパフォーマンスに優れているうえに [低] に比べてセキュリティが厳しいからに過ぎません。詳細については、[アプリケーション保護の解説 \(英語\)](#) を参照してください。

## 5.2 フォルダー セキュリティの設定

このセクションでは、条件によっては必要となるフォルダー セキュリティ設定について説明します。

### 5.2.1 IIS 5、IIS 6、identity impersonate の設定

このセクションの内容は、IIS 5 および IIS 6 に関するものです。

IIS 管理コンソールの [プロパティ] ダイアログボックスの [ディレクトリ セキュリティ] タブにある [認証とアクセス制御] セクションで当該サイトへの匿名アクセスが許可済みで、かつ web.config ファイル内の /configuration/system.web/identity 要素の impersonate 属性を true (`<identity impersonate="true" />`) に設定する場合は、ASP.NET ユーザーではなく IUSR\_\* に [フォルダーの内容の一覧表示] のアクセス許可が必要です。

## 5.3 最大ワーカー プロセス数

[最大ワーカー プロセス数] が 2 以上に設定してある場合は、Sitecore のキャッシュが正常に消去されないことがあります。この値は 1 に設定する必要があります。

マルチ プロセッサ サーバーの場合は、OS/IIS をインストールしたときに、この値が自動的に 1 よりも大きく設定されることがあります。こうしたサーバーでは、1 よりも大きな値に設定される可能性があるため、この設定を確認することが特に重要です。

## 5.4 ブラウザーごとの要件

### Internet Explorer 6

Internet Explorer 6 を実行している場合:

- MSXML 4.0 をインストールする必要があります。
- カスタム ポップアップ オブジェクトを使用している Web ページにアクセスしているときに、予期せず Microsoft Internet Explorer 6 が終了して、Mshtml.dll ファイルにエラーの生成されることがあります。この問題は、Windows XP サービス パック 2 (SP2) か Windows Server 2003 サービス パック (SP1) がいずれかをベースとするコンピューターにセキュリティ更新プログラム 918899 をインストールすると発生します。

KB918899 を削除するか (<http://support.microsoft.com/kb/918899>)

または

KB923996 をインストールする必要があります (<http://support.microsoft.com/kb/923996>)。

Windows XP の場合:

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyID=ff9bc431-01f3-48e8-9a58-d701d2e60c1d&DisplayLang=en>

- Windows 2003 の場合:  
<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?familyid=4AE4AA58-97FB-4CCF-ABA4-F9271A9282E2&displaylang=en>

## 5.5 その他

このセクションでは、その他のさまざまな要件を示します。

### 5.5.1 最新の更新プログラムをインストールする

Windows Update (<http://windowsupdate.microsoft.com>) にアクセスし、該当するすべてのサービス パックとセキュリティ更新プログラムを、Sitecore CMS のすべてのホスト コンピューターとクライアント コンピューターにインストールしてください。

### 5.5.2 UNC 共有には対応していない

Sitecore CMS は、UNC 共有上ではなくローカル ドライブ上にインストールする必要があります。

### 5.5.3 Sitecore は仮想ディレクトリからは稼働できない

Sitecore は仮想ディレクトリからは稼働できませんので、Sitecore 用の仮想ディレクトリは作成しないでください。

### 5.5.4 .NET Framework を更新する前に IIS をインストールする

このセクションの内容は、IIS 6 に関するものです。

Sitecore ホスト上で発生する、ASP.NET の設定上の問題を減らすため、.NET Framework のインストールまたは更新を行う前に、IIS をインストールしてください。

IIS をインストールする前に .NET Framework のインストールまたは更新を済ませた場合は、ASP.NET のインストールのトラブルシューティングに関する手順を示した解説が以下のリンクにありますので参照してください。

<http://www.microsoft.com/technet/prodtechnol/WindowsServer2003/Library/IIS/187d0e2c-8e89-49ad-a89d-e26e4d76ee68.mspx?mfr=true>

## Chapter 6

### 付録

この章では、それぞれの環境を設定するのに役立つ補足的な手順を示します。

この章には次のセクションがあります。

- サーバーの設定
- IIS
- Visual Studio で Web プロジェクトを作成する

## 6.1 サーバーの設定

### 6.1.1 フォルダーのセキュリティ設定を更新する

フォルダーのセキュリティ設定を更新する方法:

1. Windows エクスプローラーで、目的のフォルダーを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
2. [プロパティ] ダイアログ ボックスの [セキュリティ] タブをクリックします。
3. [グループ名またはユーザー名] フィールドでユーザーまたはグループを選択します。そのユーザーまたはグループに、[アクセス許可] フィールドでアクセス許可を適宜付与します。

各フィールドが選択済みで、かつ淡色表示になっていれば、アクセス許可は親フォルダーから正しく継承されたということです。

### 6.1.2 アクセス許可が継承されるように設定する

アクセス許可は、継承されるように設定する必要があります。アクセス許可が拒否されている場合は、ファイル システム リソースにアクセスしているときにエラーが発生します。

アクセス許可が継承されるように設定する方法:

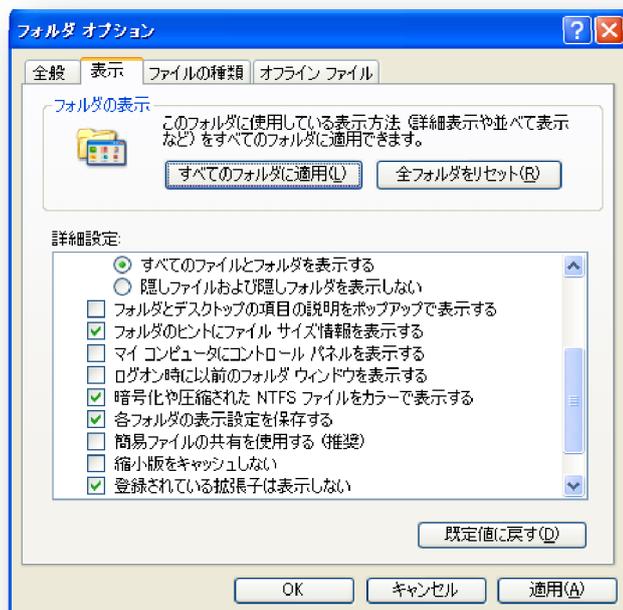
1. Windows エクスプローラーで、親フォルダー (Website や Data など) を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
2. [プロパティ] ダイアログ ボックスの [セキュリティ] タブをクリックします。
3. [セキュリティ] タブの [グループ名またはユーザー名] フィールドで、IUSR\_\* と ASP.NET ユーザーを選択します。
4. [セキュリティ] タブの [詳細設定] をクリックします。
5. [セキュリティの詳細設定] ダイアログボックスで、[Allow inheritable permissions] チェック ボックスと [Replace permission entries] チェック ボックスを両方ともオンにします。

### [セキュリティ] タブを見えるようにする

Windows XP Home から Windows XP Professional にアップグレードした場合は、[セキュリティ] タブの表示されないことがあります。その場合は、次のようにしてください。

1. Windows エクスプローラーで、[ツール]、[フォルダ オプション] の順にクリックします。

2. **[フォルダ オプション]** ダイアログ ボックスの **[表示]** タブをクリックします。



3. **[簡易ファイルの共有を使用する (推奨)]** チェック ボックスがオフになっていることを確認します。

[セキュリティ] タブにアカウントが表示されない場合は、表示させる必要があります。

## アカウントを表示させる

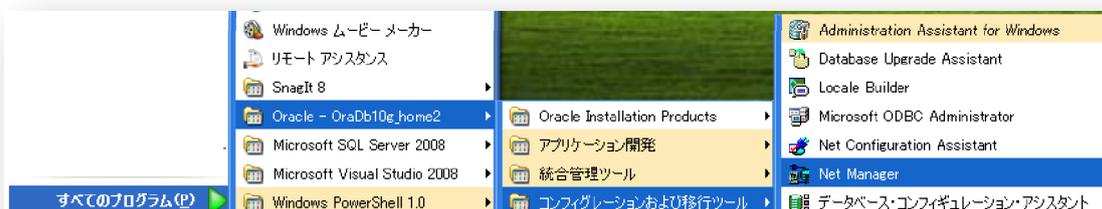
[セキュリティ] タブにアカウントを表示させる方法:

1. **[プロパティ]** ダイアログ ボックスの **[セキュリティ]** タブをクリックします。
2. **[セキュリティ]** タブの **[追加]** をクリックします。
3. **[ユーザー、コンピューター、またはグループの選択]** ダイアログ ボックスの **[場所を指定してください]** フィールドで、ローカル コンピューターが選択されていることを確認します。
4. **[選択するオブジェクト名を入力してください]** フィールドに、「ASPNET」「NETWORK SERVICE」「IUSR\_<machinename>」のいずれかをアカウント名として入力し、**[名前の確認]** をクリックします。

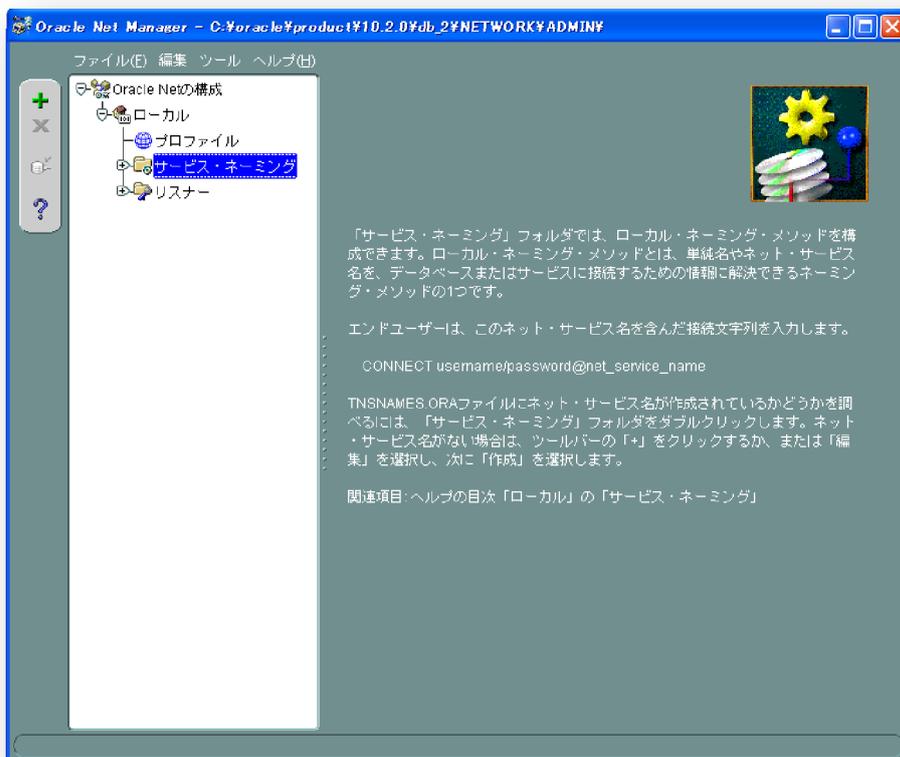
[詳細設定] をクリックしてから [検索開始] をクリックして、追加するアカウントを選択する方法でも同じ結果が得られます。

### 6.1.3 Oracle インスタンスへの接続を追加する

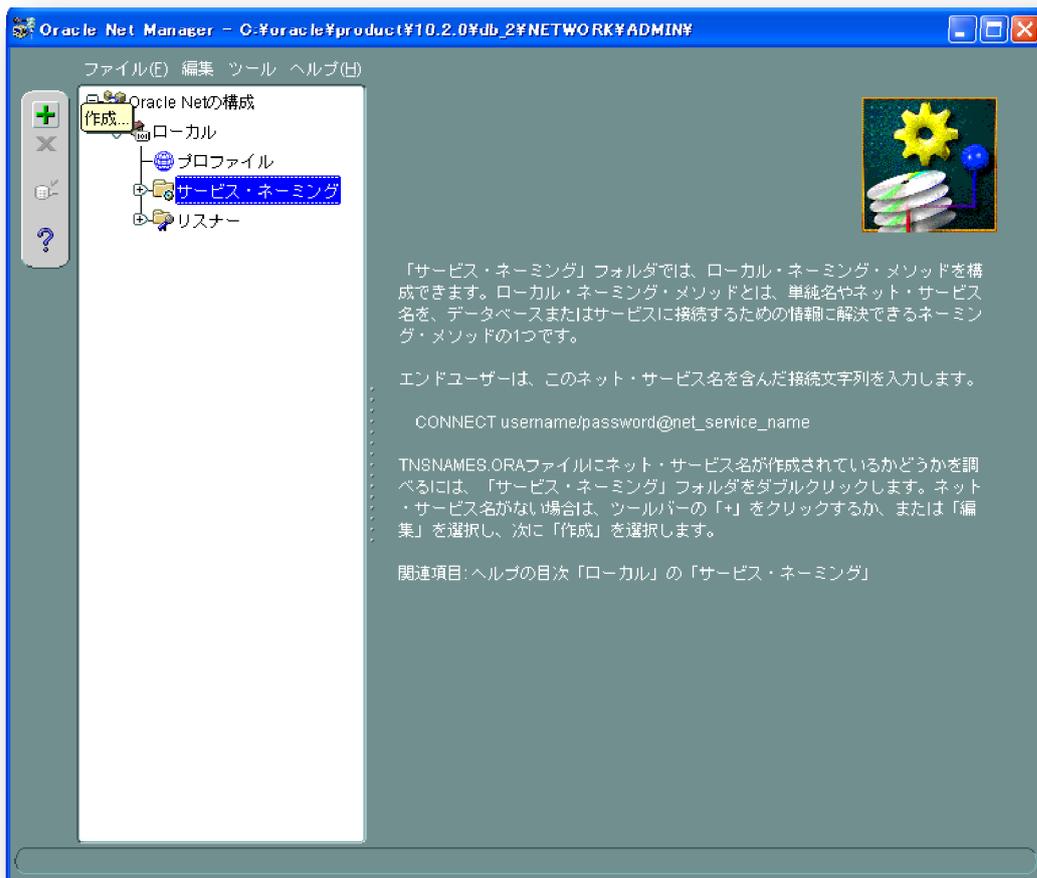
PC またはサーバーに Oracle クライアントをインストールした後、[すべてのプログラム]、[Oracle - Home]、[コンフィグレーションおよび移行ツール]、[Net Manager] の順にクリックすると、Oracle Net Manager が見つかります。



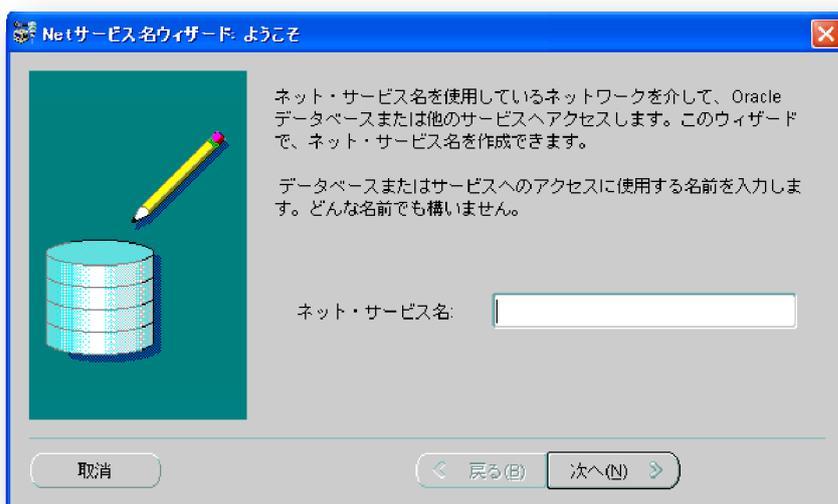
Net Manager のメイン ウィンドウは、左側がアイテム ツリー、右側が詳細ペインという配置です。アイテム ツリーの左側には、接続設定の追加と削除ができるツール バーがあります。



Oracle インスタンスへの新規接続を追加するときは、アイテム ツリーの左にあるツール バーの [作成] ボタンをクリックしてください。



すると、Net サービス名ウィザードが開始されます。

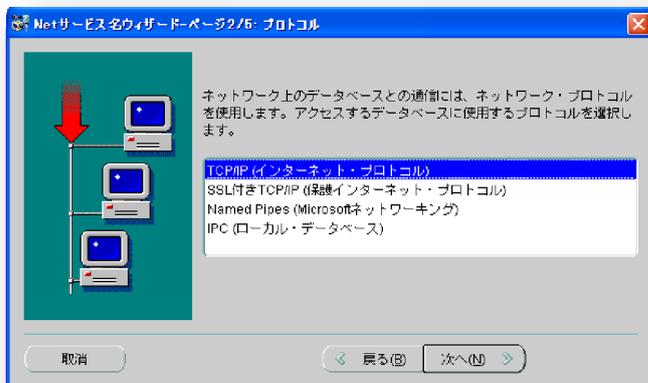


このウィザードの最初のページで、[ネット・サービス名] に入力し、[次へ] をクリックします。

[ネット・サービス名] とは、Sitecore から Oracle サーバーへの接続に使用されるローカル エイリアスのことです。これは、Sitecore の ConnectionStringsOracle.config 内にある接続文字列の data source の部分に指定する必要があります。



Oracle サービスに接続するためのプロトコルを選択し、[次へ] をクリックします。ローカル ネットワークでは、暗号化機能なしで TCP/IP プロトコルを使用するのが最も一般的です。



TCP/IP プロトコルの場合は、Oracle サーバーの配置される [ホスト名] (または IP アドレス) と TCP の [ポート番号] を設定してください。[次へ] をクリックして、次の手順に進みます。

**メモ:** デフォルトのポート番号は 1521 です。

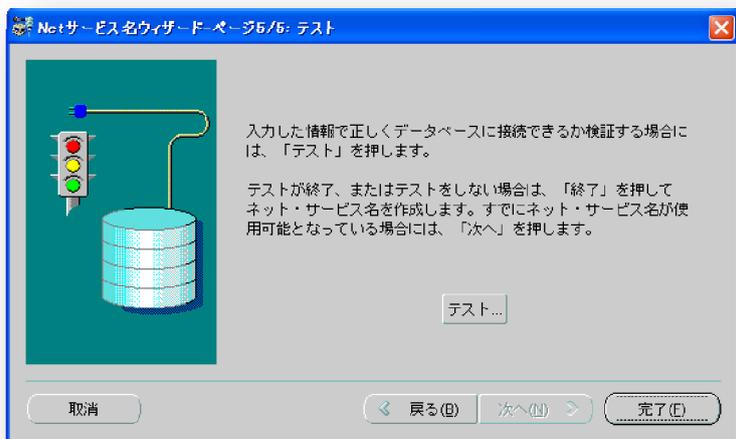


リモート サーバー上で設定した Oracle サービス名を入力し、[次へ] をクリックします。

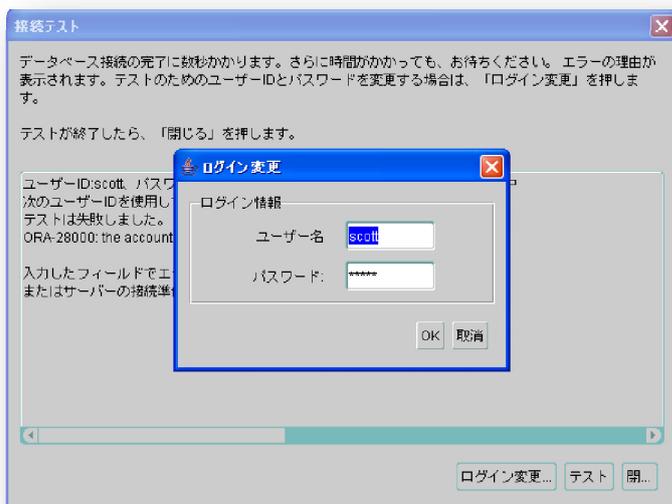
**メモ:** Oracle 10g Express エディションの場合、サービス名は **XE** です。



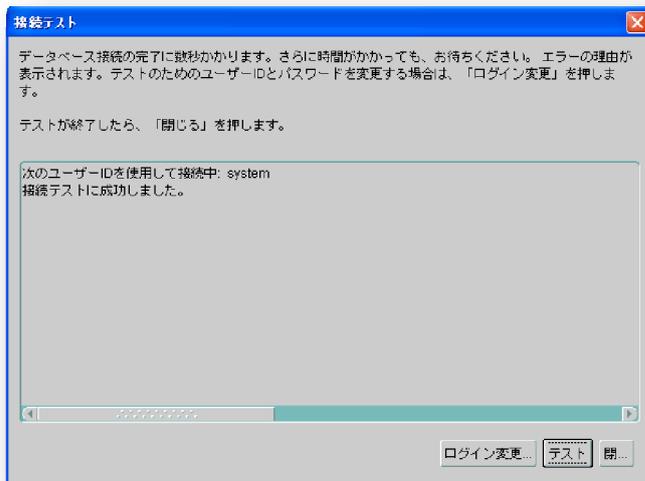
すべてのパラメーターの入力が済んだ後で [テスト] ボタンをクリックするとテスト ページが表示されますので、このページでサーバーへの接続がテストできます。



デフォルトの "scott/tiger" という資格情報がサーバーから拒否された場合は、[ログイン変更] ボタンをクリックし、Sitecore データベース スキーマのいずれかのユーザー名とパスワードを入力してください。



すべてのパラメーターが正常に入力された場合は、接続テストに合格した旨が表示されます。



テスト ウィンドウを閉じて、[閉じる] をクリックすると、ウィザードが閉じます。Net Manager のメイン ウィンドウには、新規に作成された接続とそのパラメーターとが表示されます。

## 6.2 IIS

このセクションでは、IIS に関する便利な手法をいくつか示します。

### 6.2.1 IIS にアクセスする

[インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー] を開きます。

Windows XP を実行している場合は、[コントロール パネル]、[管理ツール]、[インターネット インフォメーション サービス] の順にクリックして、IIS 用の Microsoft 管理コンソールを開きます。

Windows 2003 を実行している場合は、[コントロール パネル]、[管理ツール]、[インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー] の順にクリックして、IIS 用の Microsoft 管理コンソールを開きます。

### 6.2.2 IIS 5 または IIS 6 で新規 Web サイトを作成する

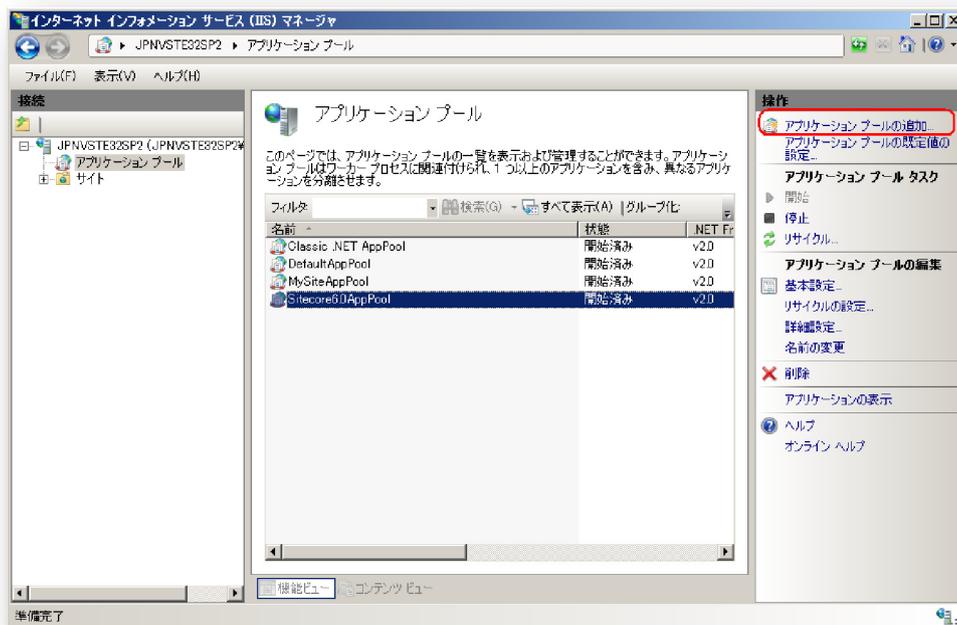
[インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー] を開きます。

[インターネット インフォメーション サービス] ウィンドウで、[Web サイト] を展開します。

- Windows XP の場合: [既定の Web サイト] を右クリックして、[プロパティ] をクリックします。
- Windows 2003 Server の場合: 新規 Web サイトを作成します。

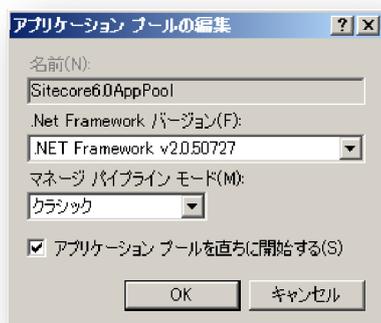
### 6.2.3 IIS 7 で新規 Web サイトとアプリケーション プールを作成する

1. [インターネット インフォメーション サービス (IIS) 7 マネージャー] を開きます。  
[コントロール パネル]、[管理ツール]、[インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー] の順にクリックして、IIS 用の Microsoft 管理コンソールを開きます。
2. 新規のアプリケーション プールを作成するか、既存のアプリケーション プールを開くかします。  
新規のアプリケーション プールを追加するときは、ツリーの [アプリケーション プール] ノードをクリックし、[操作] パネルの [アプリケーション プールの追加] をクリックします。



[アプリケーション プールの編集] ダイアログ ウィンドウが表示されます。

3. [アプリケーション プールの編集] ダイアログ ウィンドウの [名前] フィールドにプール名を入力し、[.NET Framework バージョン] を [Net Framework v2.0.XXXXX] に設定します。[OK] をクリックします。



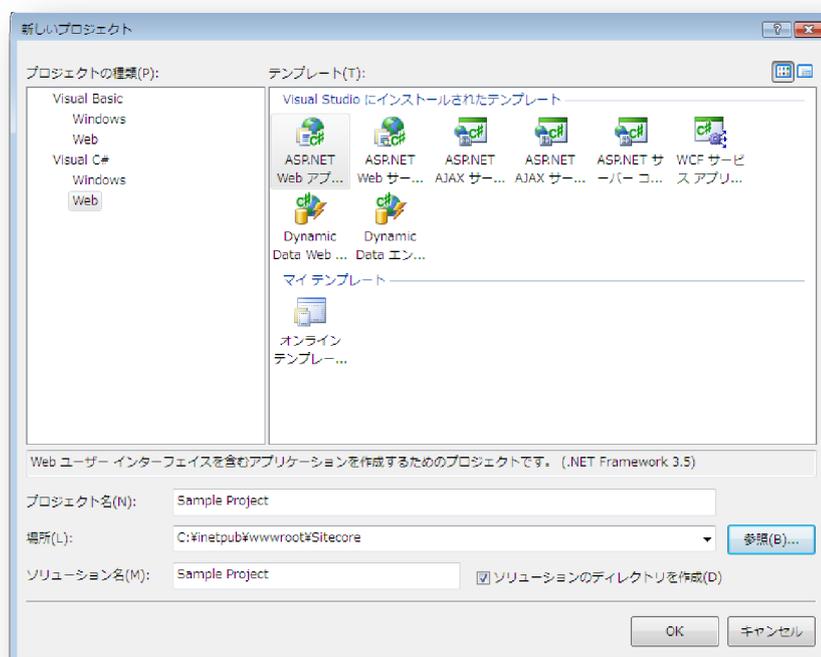
[接続] パネルで、[Web サイト] を展開し、新規 Web サイトを作成します。作成したサイトを右クリックし、[Web サイトの管理]、[詳細設定] の順にクリックします。

## 6.3 Visual Studio で Web プロジェクトを作成する

Sitecore の拡張プロジェクトの場合は、Visual Studio 2005 SP1 と Visual Studio 2008 に対応した ASP.NET Web アプリケーション プロジェクトを使用してください。

Web プロジェクトをセットアップする方法:

1. Visual Studio を起動します。
2. Visual Studio で、[ファイル]、[新規作成]、[プロジェクト] の順にクリックします。
3. [新しいプロジェクト] ウィンドウで、[ASP.NET Web アプリケーション] をクリックし、たとえば「Sample Project」のような名前を入力します。



[OK] をクリックすると、指定した名前のプロジェクト フォルダーが作成され、そのフォルダー内に、関連ファイルがいくつかと、使用されないその他のファイルがいくつか作成されます。

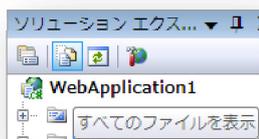
4. Visual Studio を終了します。
5. Windows エクスプローラーを開き、作成したプロジェクト フォルダーを見つけます。このフォルダーは、多くの場合、My Documents\Visual Studio 2005\Projects の下にあります。
6. [プロパティ] フォルダーと、\*.csproj ファイルと、\*.csproj.user ファイルを Sitecore の Web ルートに移動またはコピーします。Visual Studio のプロジェクト フォルダーは、この段階で削除しても構いません。

7. Sitecore の Web ルートで、\*.csproj ファイルをダブルクリックし、Visual Studio 内のプロジェクトを開きます。
8. Visual Studio のソリューション エクスプローラーで、default.aspx ページを右クリックし、[プロジェクトから削除] をクリックします。
9. ソリューション エクスプローラーで、[参照設定] を右クリックし、[参照の追加] をクリックします。
10. [参照] タブをクリックし、Sitecore.Kernel.dll ファイルを選択し、[OK] をクリックします。
11. ソリューション エクスプローラーで、Sitecore.Kernel.dll ファイルを選択し、[ローカル コピー] プロパティを False に設定します。

Visual Studio 内でファイルを編集するためには、そのファイルが表示されるようにしたうえで、そのファイルをプロジェクトに含める必要があります。

ファイルを表示させる方法:

1. ソリューション エクスプローラーで、[すべてのファイルを表示] をクリックします。



2. 編集するファイルは、この段階で含める必要があります。たとえば [XSL] フォルダーを右クリックし、[プロジェクトに含める] をクリックします。
3. 最後に、ファイル自体をダブルクリックして編集します。
4. Visual Studio を終了します。

画面に指示が出たら、指定されたアイテムをデフォルト ロケーションに保存します。以後は、Sitecore CMS の Web ルートにある対応ファイル (\*.sln) を開くことにより、このプロジェクトを開けるようになります。

関連資料:

- <http://msdn2.microsoft.com/en-us/asp.net/aa336618.aspx>
- <http://webproject.scottgu.com/>
- <http://webproject.scottgu.com/CSharp/Default.aspx>
- <http://webproject.scottgu.com/CSharp/HelloWorld/Helloworld.aspx>